

福島大学 経済経営学類

学修案内

(抜粋)



令和4年度入学者用

2022

表紙ロゴ(旧校章)について

表紙のロゴは高等商業学校時代に作られ、今も同窓会などで使用されている経済経営学類独自のロゴマークです。

以下、経済同窓会創立50周年時に発行された『信陵50年』（45ページ）より抜粋

“学校のシンボルともいえる校章の図案が誰の考案になったものか明らかではない。学校創設事務所が置かれていた文部省の然るべき人が、あるいは東京美術学校（現東京芸大）に制作を委嘱したものだろうが、最終的には初代校長も参画されて決定したものと思われる。マーキュリーが手にした杖 caduceus の一部分に、FCC の三文字を組み合わせて校章にし、校旗にはもちろん、応援団の団旗にも使用された。福大経済学部になってからはFUEの三文字に置き替えたものをバッジに使っている。

商業高校の中で、校章の図案にマーキュリーの杖を使っているのが数多くある。その源流は東京高商（現一橋大学）の校章にあり、またそのルーツをたどればロ マ神話にまでさかのぼる。

商業・学術を司る神、マーキュリーが手に持っている杖には二匹の蛇が巻きつき、杖の頂にははばたいている翼をかたどってある。一橋大学同窓会名簿にはこう解説している 蛇は英知をあらわし、常に蛇のように聡く世界の動きに敏感であることを、また翼は世界に翔け五大州に雄飛することを意味していると。

源流となった東京高商の校章デザインは当時のベルギー人教師アーサー・マリシャルと教頭成瀬隆蔵後に大阪高商、(現大阪市大)の初代校長 の発案によって明治二十年頃に制定されたという。横文字の入った校章は、当時の市民には物珍しく、真新しい帽子の高商生を眺めるのであった。”

はじめに

経済経営学類は、2019 年度から経済学コース（経済理論モデル、グローバル経済モデル）、経営学コース（地域経営モデル、会計ファイナンスモデル）という 2 本の柱と、コース横断的なグローバル・エキスパート・プログラムからなる教育組織に再編されました。ここでは、経済経営学類の学生に「経済学と経営学の専門知識」「エビデンスにもとづいて論理的に思考する力」「フィールドを通じて社会の課題に主体的に取り組む力」「グローバルに思考し実践に進む力」「キャリアを見据え自立し協働する力」を卒業までに身につけてもらいたいという、学類の教育理念・目標を掲げています。

カリキュラムには、入学と同時に所属するスタートアップセミナーから問題探究セミナー、第 4 セメスターから所属することになる専門演習まで、少人数で学ぶ場が多く用意されています。これらの場を利用して、コミュニケーション力（多様な考えを聞く力、他者に対して説得的に意見を伝える力）、情報収集・整理能力、他者と協働する力を磨いてほしいと思います。

『学修案内』には、経済経営学類の学生のみなさんが卒業までにどのような科目を履修し、必要な単位を積み重ねればよいのか、そのメニューとルールが記載されています。高校までとは異なってセメスターごとの時間割は、学生のみなさんそれぞれが自らの学問的関心にしたがって主体的・能動的に組み立てる必要があります。グローバル化、情報化等によって社会が急激に変動するなかで、明日の見通しすらも不透明・不確実性を増してきています。このような世の中を「しなやか」に渡って行くための術を、みなさんが本学類を卒業するときに、一つでも多く修得していることを期待しています。

（経済経営学類長 末吉 健治）

履修に関する基本的事項

学修案内はみなさんが卒業するために、あるいは各種資格を取得するために必要な履修方法などの情報を掲載しています。よく読んで、それぞれ自分自身の「履修計画」を立ててください。

各学類には、卒業要件として履修基準表が示されています。履修基準表では、「接続領域」「教養領域」「問題探究領域」で構成される「基盤教育」に「専門教育」「自由選択」を加えて大きく3つに区分されています。基盤教育とは、大学での学修の基礎を築くとともに、よりよい社会を築くための現代的教養を身につけ、問題発見・追究・解決の基本を身につけることを念頭に置いた区分です。専門教育とは、基礎的科目の履修を重視しつつ、各学類・コースの教育目的、人材育成の目的を達成するために身につける専門的な知識や技術を学ぶための区分です。自由選択は、他学類や他コースの科目を横断的に履修して学際性の幅を広げることを念頭に置いた区分です。

学修案内に記載されない個別の連絡事項については、学類ごと所定の掲示板に掲示しますので、毎日立ち寄り確認してください。授業担当教員からの連絡事項などは、LiveCampus（ライブキャンパス/教務事項を含む統合WEBシステム。「LC」と省略します）の案内の場合もあるので、こちらも1日1回は確認してください。

学修案内の記載事項や掲示を見落として単位が修得できず、卒業や資格取得ができなくなったとしても、それはみなさんの自己責任となります。不明な点があれば、教務課の各学類係で確認してください。

学修案内の修正、変更は随時行います。掲示やLCでお知らせしますので、確認漏れのないようにしてください。特に4月・10月のセメスター始めは教室変更など多数の連絡事項が予想されます。

1. 授業時間帯、セメスターについて

(1) 単位と授業時間

大学で開講される科目にはそれぞれ**単位数**が定められています。みなさんが授業を受講し、担当教員によって一定の水準に達したと評価されたときにこの単位が認められます。卒業もしくは各種資格を取得するためには、定められた科目について単位の認定を受け、必要な単位数を修得しなければなりません。

授業科目の単位数は、「大学設置基準」により1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法や、授業時間外の学修等を考慮して大学が定めるとしています。

単位数計算の基準は、講義及び演習については、15～30時間の範囲で1単位。実験、実習及び実技については、30～45時間の範囲で1単位とされています。

これを受け、本学では毎週1コマ(90分)の授業を半期間(30時間)受講することにより、講義及び演習は2単位、実験、実習及び実技については1単位として認定しています。ただし、授業科目によっては異なる場合がありますので、各授業科目の単位数を参照してください。

なお、本学における1時限(単位算出上の用語として1コマと称す)90分の授業は、設置基準上の2時間とみなします。

設置基準でいう45時間1単位を満たすためには、自宅等において自学自習(予習・復習)を行うことが求められていることに留意してください。

【 授業時間表 】

曜日 時限	月～金曜日	土曜日
1時限	8:40～10:10	土曜日は、昼間 開講科目の授業を 行わない。
2時限 (昼休み)	10:20～11:50 (11:50～13:00)	
3時限	13:00～14:30	13:00～14:30
4時限	14:40～16:10	14:40～16:10
5時限	16:20～17:50	16:20～17:50
6時限	18:00～19:30	18:20～19:50
7時限	19:40～21:10	

専門科目の一部を夜間主の授業時間帯（網かけ部分）に開講することがありますので、注意してください。

夜間主の授業は、通常、平日の6・7時限、および土曜日の3・4時限に行われます。

(2) セメスター

本学では学年制は取っていないので、在学経過年とともに自動的に学年（年次と呼ぶ）が進行します。在学しなければならない4年間を年2期（4～9月を前期、10～3月を後期）に分け、各期を「セメスター」と言います（4年間で計8セメスターとなる）。このため、1年次前期は第1セメスター、同後期は第2セメスターとなり、順次進行してゆくことになります。

ただし、食農学類生については、各年次における進級要件が定めてあるため、進級要件を満たせなかった場合は、当該セメスターに留め置かれることになります。

2. 履修科目の登録手続きについて

- (1) 授業を履修するには、必ず履修登録をしなければなりません。履修登録は、インターネットに接続された学内外のパソコンから、「LC」に接続して行います。詳しくは、新入生ガイダンスで配付した「共通ガイドブック」を参照してください。なお、「LC」はパソコンでの使用を前提としたシステムであり、スマートフォンやタブレットでの動作は保証していません。ID・パスワードを忘れた場合は、情報基盤センターで再発行手続きを行ってください。電話での問い合わせには応じられません。
- (2) 定められた期間内に登録をしなかった授業科目については、いかなる理由があっても受講することは認められませんので注意してください。
- (3) 基盤教育科目や専門教育科目の一部には受講者の人数を制限する科目もありますのであらかじめ所定の手続きをとってください。
- (4) 特定の授業科目を履修した後でない受講できない等の制限が設けられている科目もありますので、学修案内・時間割表等で確認の上、登録するよう注意してください。
- (5) 次の場合、履修登録の際「LC」でエラーとなり、履修は認められませんので注意してください。

二重履修・・・同一時限に同時に開講する2つ以上の授業科目を履修すること。

特に、集中講義の日程が重ならないように注意してください。

すでに修得した授業科目（入学前の既修得単位として認定された科目を含む）と同一の授業を再び履修すること。

同時履修・・・同一の授業科目を同一セメスターに複数受講すること。

(6) 履修登録期間は教務関係日程表を参照してください。期間内に履修登録と履修登録内容の確認を「LC」の時間割表画面で行ってください。

(7) 授業科目の中には、教室の収容人員の都合上、受講者を制限するものがあります。

特に基盤教育の授業科目の受講調整は、毎年一定の手続きにしたがって行われます。

詳細は、接続領域、教養領域、それぞれの履修方法の説明で確認してください。専門教育科目でも同様に、受講者を制限する場合があります。また入学時におこなうガイダンスや掲示でも説明をおこないますので、必ず指示にしたがってください。調整対象となった科目は、受講許可を得なければ履修登録ができなくなるので十分に注意してください。

3. 試験及び成績について

(1) 試験及びレポートについて

試験について

試験には、厳格な規則（試験規則など）が適用される**正規試験**と、担当教員の判断で随時行われる**平常試験**があります。正規試験を欠席した場合には、追試験または履修登録撤回の手続きが認められた場合を除き、自動的に不合格となります。正規試験は、授業期間終了後の決められた期間（教務関係日程表参照）に実施されます。

正規試験を実施する科目は試験期間開始日の2週間前までに、正規試験の日程は試験期間開始日の1週間前までに発表されます。試験の時間割は、通常の授業の曜日・時間帯・教室等と異なる場合が多いので十分注意してください。

【試験期間の授業時間表】

曜日 時限	月～金曜日	土曜日
1時限	8:40～10:10	土曜日は、昼間 開講科目の試験 を行わない。
2時限	10:25～11:55	
(昼休み)	(11:55～12:45)	
3時限	12:45～14:15	13:15～14:45
4時限	14:30～16:00	15:00～16:30
5時限	16:15～17:45	16:45～18:15
6時限	18:00～19:30	18:45～20:15
7時限	19:45～21:15	

また、試験日程発表後に教室や実施日が変更になる場合もありますので、試験期間中の掲示には特に注意してください。

正規試験を受験する際の注意事項は、学生受験心得に定められていますので、受験の前

に熟読しておいてください。また、福島大学試験規則も同様に熟読してください。さらに、以下の事項にも留意してください。

追試験制度

病気その他やむを得ない事情により正規試験を受験できなかった場合は、追試験を認めることがあります。追試験の受験を申請する者は、所定の期間に追試験受験願を提出しなければなりません。その際に、病気の場合は医師の診断書、公共交通機関の遅延の場合は遅延証明書が必要となります。

公共交通機関の突発的な事故等による追試験は、以下を条件として認められることに注意してください。

- ・試験開始 5 分前に余裕をもって間に合うように、通常の公共交通機関を利用して登校しつつあったが、当該事故等によって試験開始時刻に遅れた。
- ・当該事故等について、試験日程の変更や試験開始時刻の変更などの措置がとられなかった。

不正行為に対する処分

不正行為（カンニング等）を行った場合、当該科目だけでなく、そのセメスターの履修登録がすべて取り消しになるほか、学則に基づき懲戒処分を受けることとなります。

学生証の携帯

学生証を携帯しなければ正規試験を受験することはできません。筆記試験の時間中は、学生証を机の上の見やすいところに置いてください。

レポートについて

正規試験としてのレポート試験は、筆記による正規試験と同様の扱いとなります。すなわち、未提出者は正規試験を欠席したものとみなします。

上記以外のレポート（平常レポート）は、科目ごとの指示に従ってください。教務課窓口へ提出する場合は、教務課事務室前に設置されている平常レポートボックスに入れてください。なお、提出期限を過ぎたものは受け付けません。

レポートの体裁は、レポート試験・平常レポートともに必ず次のような表紙をつけ、担当教員から特に指示があった場合を除き、A4版 400字詰横書き原稿用紙を用い、複数枚の場合は必ずステープラー（ホチキス）で綴じて提出してください。

表紙見本
(本文は 2 枚目からとする)

科目名			
曜日・時限		曜日	時限
担当教員			
所属学類			学類
学籍番号			
氏名			
提出年月日		年	月 日

【レポート作成の際の注意事項】

文献・電子書籍やインターネットの記述をレポートに利用する際には、利用した箇所が明らかになるように、必ず出典を明記してください。

以下の行為は**不正行為**です。絶対に行ってははいけません。「研究倫理に関して」を参照
作成者の許諾のあるなしに関わらず、他人が作成したレポートを盗用し、自分が作成したものと偽って提出すること。

出典を明らかにせずに、文献やインターネット上の記述 / 電子書籍の内容をコピーし、レポート作成に利用すること。

特に、インターネット上の記事を、出典を明らかにせず、単に「コピー / 貼り付け」してレポートを作成することは、著作権を侵害するという点で社会的にも許されない行為です。数個の記事を組み合わせてコピーした場合でも同様です。レポート作成において、文献やインターネット上の記事を利用する際のルールについてわからない場合には、担当教員に相談してください。

(2) 単位の認定及び成績評価について

本学の単位の認定は、各科目について次の5段階で評価し、S~Cを合格とします。各科目の評価方法等は、シラバスに明示されています。

単位の認定は、正規試験としての筆記試験やレポートによるばかりでなく、平常試験や平常レポート等で行われることもあります。

	評語	学修成果	評点	GP
合格	S	単位認定基準を満たし、かつすべての項目で優秀な学修成果をあげた	90点~100点	4
	A	単位認定基準を満たし、かつ多くの項目で優秀な学修成果をあげた	80点~89点	3
	B	単位認定基準を満たし、かついくつかの項目で優秀な	70点~	2

		学修成果をあげた	79点	
	C	単位認定基準を満たす最低限の学修成果をあげた	60点~ 69点	1
不合格	F	単位認定基準の学修成果をあげられなかった	59点 以下	0

GP (Grade Point) については、次頁を参照してください。

【単位認定上の注意事項】

- ・ 授業料を所定の期間に納入しなかった者(授業料全額免除者を除く)が履修する科目の単位認定は、授業料の納入が確認された後に行います。したがって、授業料未納によって除籍された者が当該年度(セメスター)に履修した科目は、単位を認定しません。
- ・ 集中講義の単位認定『セメスター』について
集中講義の日程ならびに単位認定『セメスター』については、履修登録手続き前に掲示します。開講日程(時間帯)が重複している場合は、二重履修となり履修できません。

(3) 成績発表について

各セメスターの成績発表日以降、「LC」で成績を確認することができます。各セメスターの成績発表日以降に当該セメスター分が追加されますので各自必ず確認してください。なお、紙での交付は行いません。成績の確認は、メンテナンス期間を除き随時可能です。

(4) 不服申立てについて

成績評価について不服がある場合には、セメスターごとの所定の期間内に申立てをすることができます。不服申立ては、「LC」により行います。申請方法等の詳細は、掲示によりお知らせします。

この「不服申立て」に対しては当該授業科目の担当教員が個別に対応します。ただし、非常勤講師担当の授業科目にかかわる「不服申立て」については教務課窓口で対応します。

成績に対する不服は、単に自分が期待した評価が得られなかったというだけでは、申し立てることはできません。「不服申立て」にあたっては、シラバスの成績評価基準による自己採点と得られた成績評価との間に明らかにギャップがあるなど、不服申立てを行うに足る合理的な根拠を明確に説明することが必要です。要件を満たさない申立ては受理されません。

4. GPA制度について

GPA とは何か - 「量」より「質」の学修

卒業するためには、124 単位を修得しなければなりません。この「単位」は、大学における学修の「量」をカウントするものです。これに対して、GPA とは、大学で修得した単位の「質」(クオリティ)を測定する尺度です。

GPA は、学生が履修した科目の成績評価(S、A、B、C 及び F)をそれぞれ 4、3、2、1、0 に点数化し(これを GP といいます)履修科目の 1 単位当たり平均 GP の値を計算します。本学では、例えば奨学金の募集上の基準や研究室への所属決定の際の基準など様々な形で利用されています。また、就職において成績を重視する企業も増えていますので、採用上の判断材料として使われる場合もあるようです。

GPA は、学修の「量」より「質」を求める制度ですので、1 セメスター当たりの履修登

録単位を制限する Cap 制度があります。

GPA 制度は、履修登録した授業科目に対する学生の履修責任を前提としています。履修登録撤回の手続きをとらずに、ある科目の学修を途中で放棄した場合には、不合格と同様に扱われ、GPA を大きく引き下げることになります。このようなことにならないように、よく考えて履修計画を立ててください。その際、履修計画の手引きとして、シラバスがあります。シラバスには、その授業科目でどのようなことを学修するのか（授業概要・授業計画）また学修の達成度をどのように評価するのか（評価方法）が、担当教員によって詳細に示されています。

もちろん、学修の「質」の向上は、学生の努力だけで達成されるものではなく、教員の教育責任も当然の前提となります。授業でよく理解できないところがあったら、オフィスアワーを利用して、直接担当教員に質問をしましょう。また、シラバスに書かれていた「評価方法」に照らして、成績評価に疑問を感じた場合には、授業担当教員に不服申立てをすることもできます。

GPA の最高点は 4.0 です。より高い GPA を獲得できるように、「量」だけでなく「質」の向上も目標として学修してください。

前頁の表で、S～C の評価及び不合格 F を 4～0 に点数化したものを GP (Grade Point) といい、さらに、以下の式によって、1 単位当たり平均 GP の値を計算したものを GPA といい、GPA は、小数点第 3 位を四捨五入し、小数点第 2 位までの値を計算します。

$$\text{GPA (Grade Point Average)} = \frac{(\text{修得した各科目の単位数} \times \text{Grade Point}) \text{ の総和}}{\text{履修登録した科目の総単位数}}$$

(注) GPA 対象外科目

全学類で共通	自主学修プログラム、インターンシップ、「N」評価科目（他大学等で修得した科目等の認定単位）
人間発達文化学類	特別支援学校教育実習（基礎及び応用）、教育実習（事前・事後指導含む）、保育実習・・・、日本語教育実習・・・、博物館実習、美術館実習、社会教育課題研究、社会教育実習
行政政策学類	要卒単位に計上されない教職に関わる科目、キャリアモデル学習、コア・アクティブ科目
経済経営学類	要卒単位に計上されない教職に関わる科目
共生システム理工学類	教員免許取得のための科目のうち「教育の基礎的理解に関する科目」、「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」及び「教育実践に関する科目」に該当する科目、学芸員資格取得のための科目のうち「生涯学習社会と学校・家庭・地域」及び「博物館実習（自然系）」
食農学類	要卒単位に計上されない教職に関わる科目、食農実践基礎演習、食農実践特別演習、フードスペシャリスト論、フードコーディネーター論、調理学、調理実習（食農）

【GPA関連諸制度】

GPA制度の下には、これが有効に機能するようにさまざまな制度が設けられています。以下の(1)～(2)の制度を正しく理解していないと、GPAの計算に不利な結果を生ずる可能性がありますので、注意してください。なお、不合格(F判定)の科目を再履修して、C評価以上で合格した場合は、上書きされるので成績証明書には表示されません。教育実習などでの不合格(H)についても同様です。

(1) 履修登録上限(Cap)制度について

本学では、単位修得に必要な予習・復習の時間を確保し、さらに、受講科目の「単位認定基準」が達成されるように、セメスターごとに履修登録できる単位数の上限を設定しています。これを「Cap制度」といい、以下のようになっています。

1セメスター当たり24単位。(共生システム理工学類のみ30単位)

(注) Cap除外科目

全学類で共通	集中講義、自主学修プログラム、インターンシップ、外部検定試験や海外留学・語学研修、単位互換科目など、学外での学修が単位として認定される科目
人間発達文化学類	教職に関わる科目(免許取得を希望する教職登録者のみ。ただし、1年次は希望しない学生でも対象科目は除外)
行政政策学類	要卒単位に計上されない教職に関わる科目、社会教育実習、社会福祉課題研究、考古学実習、古文書学実習、博物館実習、コア・アクティブ科目、中国語コミュニケーション、英語コミュニケーション、English Presentations
経済経営学類	要卒単位に計上されない教職に関わる科目
共生システム理工学類	教員免許取得のための科目のうち「教育の基礎的理解に関する科目」、「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」及び「教育実践に関する科目」に該当する科目、学芸員資格取得のための科目のうち「生涯学習社会と学校・家庭・地域」及び「博物館実習(自然系)」
食農学類	要卒単位に計上されない教職に関わる科目

行政政策学類夜間主生については、行政政策学類夜間主学修案内「授業の履修について」も参照すること。

(2) 履修登録撤回制度について

履修登録をした科目について、授業内容が予想していたものと違っていた、または授業についていけない、などを理由にして所定期間内に手続きをした者に、履修登録撤回を認める制度を「履修登録撤回制度」といいます。

これは、上記のような場合に、学生の自主的な履修登録撤回によって、低いGPを取得しGPAが低下することを回避するための措置です。

履修登録撤回期間

具体的な日程は「教務関係日程表」により確認してください。

集中講義については、集中講義開始日の翌日まで履修登録撤回を認めます。ただし、食

農学類開講の「畜産学特別実習」と「森林特別実習」については、履修登録撤回は認めません。また、共生システム理工学類の実習関係の集中講義に関しては、6月30日までを撤回期日とします。

履修登録撤回は、学生の履修計画を前提とした例外的な措置なので、ある科目を履修撤回した場合に、代わりに別の科目を追加登録することはできません。

なお、履修登録撤回の手続き期間経過後から授業期間の最終日（集中講義の場合はその最終日）までに、病気や事故などやむをえない理由で、履修登録をした科目の受講を継続することが困難になった場合などは、例外的にさかのぼって履修登録撤回を認めることがあります。入院していた証明書などを添付の上、授業期間の最終日（集中講義の場合はその最終日）までに、教務課へ申請する必要があります。

(注) 履修登録撤回を認めない科目

全学類で共通	受講調整実施科目、スタートアップセミナー、キャリア形成論、健康運動科学実習、英語A、英語B、英語(夜間主)、英語以外の外国語(基礎、基礎(特設)、応用)、スポーツ実習、情報リテラシー、問題探究セミナー
人間発達文化学類	問題探究セミナー、卒業研究科目
行政政策学類	必修科目、単位互換を除く放送大学科目(夜間)
経済経営学類	「全学類で共通」欄のとおり(専門科目における制限は無し)
共生システム理工学類	必修科目
食農学類	すべての専門教育科目 ただし、集中講義を除く 集中講義のうち「畜産学特別実習」および「森林特別実習」は撤回を認めない

5. シラバスについて

「シラバス (syllabus)」とは、「授業計画」のことで、授業名、担当教員名、講義目的、各回の授業内容、成績評価の基準や方法、予習・復習についての指示、教科書・参考書、履修条件などが記載されています。学生のみなさんは、履修計画の参考に使うほか、授業期間全体を通じた授業の進め方を確認し、各回の授業に求められる予習・復習の参考にすることができます。

履修計画を立てる際には、まず年度始めのガイダンス、学修案内によりその年度にどの科目を受講すべきか、受講可能であるかを確認します。学修案内の科目一覧には、授業の詳細な内容までは記されていないので、シラバスを参照して履修計画を立てることになります。受講時には授業全体に対する現在の授業の位置づけの確認したり、予習・復習のためのアドバイス、参考書などが勉強の参考になりますので、必ず自分の目で確認してどんどん活用してください。

また、シラバスには当該科目に関連するDP(ディプロマポリシー)の各項目の割合が示されています。後段で説明がありますが、各学生の学修履歴の記録や振り返りなどのツールとしてラーニング・ポートフォリオ(Lポートフォリオ)上で活用するためのものです。個々の授業を履修する際に特に意識する必要はありませんが、DPの各割合に応じてポイン

トが算出されるので、単に科目の単位（評価）だけでなく、DPの達成度も客観的に計ることが可能です。Lポートフォリオでは入学時・各セメスター・卒業時に、自己評価、授業評価を行い、それを4年間積み上げ、卒業までの自己の成長を記録します。

(1)「LC」のシラバス

福島大学では、学生の履修登録システムとして「LC」を導入していますが、履修登録時や授業履修時に参考になるように、各授業のシラバスも「LC」から閲覧できるようになっています。「LC」にログインし、「シラバス」の項目から履修したい授業科目を検索して参照してください。

なお、自宅やアパート等、大学外から「LC」のシラバスを参照したい場合は、<http://kyoumu.adb.fukushima-u.ac.jp/>より「LC」を選択し参照してください。

(2) 詳細シラバス

教員によっては、授業の最初の時間に、「LC」に掲載したシラバスに加え詳細なシラバスを配付する場合があります。また、授業時の資料配付やシラバスの補足などを教員のホームページ等で行っていることもありますので、オンライン版のシラバスや授業時のアナウンスを参考にしてください。

6. オフィス・アワーについて

学生は授業の前後や教員の都合の許す時間帯に、履修上の相談や授業に関する質問等を行うことができますが、「オフィス・アワー」とは、教員（非常勤講師を除く）が研究室等において、そうした相談や質問に応じるため、あらかじめ設定されている時間帯のことです。各教員は、毎週特定の時間帯をオフィス・アワーとして設定し、研究室等に待機しています。学生のみなさんは、オフィス・アワーを利用して研究室を訪れ、いろいろな質問や相談をすることができます。

大学の授業は、一般に、15回にわたって体系的に構成されているため、一つの疑問点をそのままにしていると、授業全体が理解できなくなるおそれがあります。まさに、「聞くは一時の恥、聞かぬは一生の恥」です。また、疑問点を質問するばかりでなく、オフィス・アワーを利用して、その授業科目のより発展的な勉強をするのにはどうすればよいか、担当教員にアドバイスを求めるのもよいでしょう。各教員のオフィス・アワーの時間・場所等については「LC」のシラバスで調べることができます。

7. その他履修上の注意点

各セメスターの所定の期間に「履修登録」に関わる一連の手続きを怠った場合、当該セメスターの履修を認めないので、注意してください。

各科目の履修方法等に従い履修してください。これに反する履修は認めません。違反した場合、単位の修得ができなくなる場合があります。

指定された履修年次（セメスター）で単位を修得しないと、以降の学年での履修計画に支障を来すことがあるので、注意してください。

出席不良により、正規（平常）試験の受験を認めないことがあるので、注意してください。

講義等の録画・録音は、原則として認めません。ただし、やむを得ない場合は、担当教員の許可を得た上で認めることがあります。

研究倫理に関して

一般的に、大学の役割は 教育、 研究、 社会貢献の3つだと言われており、大学に入学した皆さんは、「教育を受ける」立場にいると同時に「研究を行う主体」であると見なされます。そして、研究を行う上で最も重要なことのひとつに「研究倫理の遵守」が挙げられます。研究倫理とは、非常に簡単に言うと、研究において差別的な立場をとったり偏見による類推や断言をすることによって、過去や現在に生きる誰かを傷つけたり誰かの利益を損ねたりしないことや、研究を行う上で不正行為を行わないという研究を行う者全てが守らなければならない規範・規則や考え方のことです。

さて、先にも述べたように、皆さんは教育を受ける立場にいると同時に研究を行う主体でもあります。研究というと自分とは関係ないものであると思いがちかもしれませんが。しかし、大学では学問を「教えてもらう」のではなく、自ら主体的に問いを立て、探究し、学んでいく姿勢が求められます。また、自らが学んだことをレジュメやスライドにまとめてプレゼンテーションを行ったり、レポートを執筆するといった機会が数多く存在します。さらに、大学での学びの集大成として「卒業研究」を行い、その成果を「卒業論文」として執筆することが一般的です。これらの、皆さんが大学での学びの中で日常的に行わなければならないことの全てが学問研究の一部であることを自覚しなければなりません。では、具体的にはどのようなことに気をつければよいのでしょうか。ここでは、皆さんが1年生の時点から取組む機会の多い「レポート」を例に見ていきましょう。

レポートを作成する際は、教員から提示された、あるいは自分で設定したテーマについて、文献を読んだり、関連する資料・データを収集・分析したりして考察を深めていく必要があります。インターネットの普及に伴って、これらは昔に比べて格段に容易になってきました。また、文章の作成も手書きではなくパソコン等を用いることがほとんどとなってきています。こうした ICT 技術を活用できることも、大学生にとっては非常に重要なスキルのひとつです。一方で、パソコンやインターネットは、「コピー＆ペースト(コピペ)」によって他者が作成した文章や図表などをそのまま取り込んで使うことも容易にできてしまいました。少し難しい言葉になりますが、他者が作成した文章や図表などを勝手に自分のものとして使うことを「剽窃(ひょうせつ)」と言います。この剽窃という行為は研究不正の代表的なもののひとつであり、残念ながら、大学生が作成するレポートにおいても頻繁に見られるものです。レポートは必ず自分の言葉で書くことが基本となります。とは言え、先人の知見を参照することはレポートを作成する上では避けて通れません。そこで、他者の作成した文章や図表などをレポートに掲載する際は、「引用」を行い、誰の文章・図表等を引用したかを示す「出典」を明示する必要があります。引用と出典明示のルールや方法は、これからスタートアップセミナーや様々な科目で学ぶことであり、まだピンとこないかもしれません。しかし、この、「引用」と「出典の明示」を用いて、自分で作成したものと他者の作成したものを明確に区別しなければならないということは、現時点で強く認識しておいてください。

研究倫理を逸脱することは、明確な不正行為であり、単位の取消や場合によっては卒業できなくなってしまうような重大なことを自覚してください。研究倫理につい

て学ぶ機会はきちんと用意されています。研究倫理を守り、皆さんが健全に学問研究に取り組んでいくことに期待しています。

(9) 接続領域の履修について

「**接続領域**」は、高校教育と大学の専門的な教育とをスムーズに連結させ、大学で学ぶ上で必要な基礎能力を身に付けることを目的としています。これらを踏まえ、以下の科目を開講します。各科目の指導内容や開講のしくみ、到達すべき目標はそれぞれある程度共通化されています。

これにより質保証を図り、学類専門教育へ円滑に接続させていきます。

行政政策学類夜間主の学生については、『行政政策学類夜間主学修案内』を確認してください。

(1) スタートアップ科目について

「**スタートアップセミナーの履修について**」を参照してください。

(2) ライフマネジメント科目について

生涯にわたるキャリア発達と身体の健康維持とを目的とし、必修科目として「**キャリア形成論**」と「**健康運動科学実習**」を開講します。「**キャリア形成論**」のねらいは第一に自分と向き合い自分の人生を見つめること、第二に働くことの意味や職業についての見方を再確認すること、第三にこれらを通して大学で学ぶことの意味を考え、学ぶ主体を確立することです。「**健康運動科学実習**」は、スポーツを通して運動や健康への興味・関心を高め、生涯にわたり健やかな生活をしていくための知識や習慣を身に付けることを目的としている科目です。

< キャリア形成論の履修について >

1年次：前期に「キャリア形成論」2単位を修得しなければなりません。

学類ごとにクラスが違いますので、指定されたクラスで受講してください。

行政政策学類のクラス分けは、行政政策学類の掲示等で確認してください。

再履修者も同様です。

キャリア形成論は履修登録撤回できません。

< 健康運動科学実習の履修について >

1年次前期に「健康運動科学実習」を履修してください。

指定された曜日、時間帯（下表）で受講してください。第1回目の授業の際に種目分けを行いますので、必ず出席してください。

集合場所は、第1体育館（入学式と同じ会場）です。筆記用具と上履きを用意し、普段着で出席してください。欠席すると希望する種目が履修できないことがあります。

第1回目の授業に出席できなかった学生は、蓮沼教員（保健体育棟214号）の指示を受けてください。

学類	健康運動科学実習
行政政策学類	月曜日 2時限
人間発達文化学類	月曜日 3時限
経済経営学類	火曜日 3時限
共生システム理工学類	金曜日 3時限
食農学類	金曜日 4時限

ただし、再履修者で、必修の科目と開講時間帯が重なり、指定時間帯の受講が困難な場合は、他の時間帯での履修を認めることがありますので、第1回目の授業で担当教員に必ず申し出てください。

特別な理由により実技を行うことが困難な学生には、代替措置を認める場合があります。詳しくは第1回目の授業で説明しますので必ず出席してください。

健康運動科学実習は履修登録撤回できません。

(3) 外国語コミュニケーション科目について

別項目<英語、英語以外の外国語の履修について>を参照してください。

外国人留学生は、同じく<英語、英語以外の外国語の履修について>にある<外国人留学生向け「日本語」及び「日本事情」の履修について>も参照してください。

(10) スタートアップセミナーの履修について

大学教育の基礎を身につけるスタートアップ科目の中心となる科目です。内容は、アカデミック・スキルズ、すなわち文献や資料の読み方や書評レポートの書き方、調査・研究方法、情報技術の基礎、プレゼンテーション、ディスカッションの技術などを身に付けます。スタートアップセミナー（または問題探究セミナー）終了時に初年次レポートを提出することになります。

この科目を中心として、1年終了時まで身に付けるべきアカデミック・スキルズは以下の通りです。

【アカデミック・スキルズ チェックリスト】

- OPAC、CiNii等のデータベースを活用した文献・資料の検索方法を知っている。
- 文献・資料の内容を要約したレジユメの基本的な形式を知っている。
- 序論・本論・結論のような、レポートの基本的な構成を知っている。
- 文献・資料の内容をレジユメやレポートに反映させる際のルール（引用のしかた）を知っている。
- 参考文献・資料一覧を作成する際のルールを知っている。
- 文献・資料の内容を要約したレジユメを作成することができる。
- レポートの構成や引用のしかた等、一般的または指定された形式やルールを守ったレポートを作成することができる。
- パワーポイント等のICTを活用して、プレゼンテーションを行うことができる。

行政政策学類夜間主の学生については、『行政政策学類夜間主学修案内』を確認してください。

<スタートアップセミナーの履修手続きについて>

2単位を修得しなければなりません。学類毎にクラスが分かれていますので、詳細は、各学類の掲示等で確認してください。

未修得者は、必ず履修登録前に「LiveCampus」/各学類の掲示等で確認の上、教務課各学類窓口で申し出てください。

スタートアップセミナーは、履修登録撤回できません。

スタートアップセミナー担当者一覧

人間発達文化学類

授業科目名	クラス	曜日 時限	担当教員	セメ スタ ー	単位 数	教室
スタート アップ セミナー	教育実践コース	木 3	植田 啓嗣	1	2	M23
	心理学・幼児教育コース		原野 明子	1	2	S22
	特別支援・生活科学コース		中村 恵子 鶴巻 正子	1	2	人 201 演
	芸術・表現コース		新井 浩	1	2	S31
	人文科学コース A		佐久間 康之	1	2	M2
	人文科学コース B		半沢 康	1	2	S11
	人文科学コース C		小松 賢司	1	2	S14
	数理自然科学コース		和田 正樹	1	2	人 208 演
スポーツ健康科学コース	杉浦 弘一 松本 健太	1	2	S38 M4		

行政政策学類

授業科目名	クラス	曜日 時限	担当教員	セメス ター	単位数	教室
スタート アップ セミナー	ガイダンスおよび時間割を確認			1	2	

経済経営学類

授業科目名	クラス	曜日 時限	担当教員	セメス ター	単位数	教室
スタート アップ セミナー	A	木 3	荒知宏	1	2	403 演 /IPC101
	B		岩井秀樹	1	2	406 演
	C		岩本吉弘	1	2	407 演
	D		大川裕嗣	1	2	509 演

	E		平野智久	1	2	401 演
	F		藤原遥	1	2	411 演
	G		根建晶寛	1	2	410 演
	H		野口寛樹	1	2	402 演
	I		三家本里実	1	2	501 演
	J		村上早紀子	1	2	502 演
	K		尹卿烈	1	2	508 演
	L		福富靖之	1	2	405 演
	M		吉川宏人	1	2	404 演

共生システム理工学類

授業科目名	クラス	曜日 時限	担当教員	セメス ター	単位数	教室
スタート アップ セミナー	A	月5	衣川 潤	1	2	S 1 1
	B		木村 勝彦	1	2	S 1 2
	C		高貝 慶隆	1	2	S 1 3
	D		高原 円	1	2	S 1 4
	E		高安 徹	1	2	S 2 1
	F		永幡 幸司	1	2	S 2 2
	G		藤本 勝成	1	2	S 2 3
	H		三浦 一之	1	2	S 2 8

食農学類

授業科目名	クラス	担当教員	曜日 時限	セメスター	単位数	教室
スタート アップ セミナー	A	平 修 林 薫平	金 1	1	2	S11
	B	則藤 孝志 尾形 慎		1	2	S12
	C	高田 大輔 金子 信博		1	2	S13

	D	新田 洋司 窪田 陽介		1	2	S14
--	---	----------------	--	---	---	-----

「D」印は代表教員です。

(12) 教養領域の履修について

今日、高等教育で重視されている教養教育は、学生が他領域で学ぶ他の学生と価値観を共有し、より幅広く他領域の専門内容を理解し、協働するための「共通の言語」を形づくることを目的としています。これらを踏まえ「**教養領域**」では、以下の科目を開講します。

「教養領域」、「問題探究領域」の各科目区分で必修単位を超えた単位を、選択必修として修得しなければなりません。学類毎の単位数は、下表のとおりです。

学類	単位数
人間発達文化学類、行政政策学類、経済経営学類	7単位
共生システム理工学類、食農学類	9単位
外国人留学生（全学類）	9単位

また、それらを超えた単位は自由選択の単位として計上することができます。

行政政策学類夜間主の学生については、『行政政策学類夜間主学修案内』を確認してください。

(1) 学術基礎科目について

「人文科学」「社会科学」「自然科学」の分野からなり、幅広い教養教育の中心に位置する科目群です。各学問の基本的概念や特有の事象の見方・切り取り方を学ぶことによって、自らが専門として学ぶ学問とは異なる観点から多角的・学際的にアプローチする方法が数多く存在することに気づくことを目的としています。

<学術基礎科目の履修方法について>

学術基礎科目の3分野（「人文科学」、「社会科学」、「自然科学」）から各2単位を修得しなければなりません。

を超えて修得した単位は選択必修または自由選択の単位として計上することができます。

教員免許状取得を希望する学生は、「社会科学」分野の「日本国憲法」を修得してください。（ただし、行政政策学類生は学類の学修案内で科目を確認してください。）

科目名称についての注意

・授業科目名の二桁の数字だけが異なる場合は、同一の授業科目とみなします。この場合両方を履修することはできません。

例：日本国憲法 01、02 同一の科目

・ローマ数字が異なる場合は、別の授業科目となり両方を履修することができます。

例：歴史学 、 別の科目

行政政策学類生は「市民と法」「日本国憲法 01、02」を履修できません。

経済経営学類生は「経済学 」「経済学 」を履修できません。

「履修希望受付」は、以下の「抽選履修登録方法」手続きで行います。

< 抽選履修登録方法 >

受付期間等や「LiveCampus (ライブキャンパス)」の抽選履修登録は、教務関係
日程表・マニュアル等により確認してください。

< 1 > 1次受付 (前期科目4月初旬/後期科目10月上旬)

履修希望科目のシラバスをあらかじめ確認し、曜日・時限毎に履修希望科目を
「LiveCampus」で抽選履修登録してください。第3志望まで登録ができます。

抽選履修登録の結果、教室収容人数を超える科目は「受講調整(人数制限)」が
行われる場合があります。

受講調整が行われる場合、抽選となります。

1次受付結果は「LiveCampus」で発表します。各自、確認してください。

1次受付で受講が認められた科目の扱いは、以下のとおりです。

- ・受講調整があった科目は、当該時間帯で科目の変更・追加・撤回できません。
- ・受講調整がない科目は、原則として当該時間帯で科目の変更・追加できません。

当該時間帯に1次受付で受講が認められた科目以外を登録すると「不正登録」とな
り、不正登録科目及び1次受付で受講が認められた科目も受講できなくなります。

受講調整があった科目は、「LiveCampus」等でお知らせします。

< 2 > 2次受付 (詳細は、1次受付結果発表の翌日に掲示等で確認してください。)

1次受付後、受講調整を行った結果、履修希望が認められなかった学生に限り
2次受付を行います。

受付期間・時間帯に注意してください。

対象科目は、教室収容人員で空きがある科目のみです。

- ・「先着順」で受付します。科目毎に受付用名簿へ本人が自筆で記入します。

科目毎で定員に達した時点が受付終了となります。

- ・1次受付で受講が認められた科目時間帯は、変更・追加できません。

2次受付で受講が認められた学生は、当該時間帯の科目を変更できません。

当該時間帯に別科目も登録すると「不正登録」となり、不正登録科目及び2次受付
で受講が認められた授業科目も受講できなくなります。

2次受付結果は「LiveCampus」で登録及び修正期間内に各自、確認してください。

< 3 > 3次受付 (詳細は、2次受付結果発表の翌日に掲示等で確認してください。)

1次受付の抽選履修登録を忘れた学生への救済措置として特別に3次受付を行
うことがあります。

受付期間・時間帯に注意してください。

対象科目は、教室収容人員で空きがある科目のみです。

・「先着順」で受付します。科目毎に受付用名簿へ本人が自筆で記入します。

科目毎で定員に達した時点が受付終了となります。

・1次受付及び2次受付で受講が認められた科目時間帯は、変更・追加できません。

3次受付で受講が認められた学生は、当該時間帯の科目を変更できません。

当該時間帯に別科目も登録すると「不正登録」となり、不正登録科目及び3次受付で受講が認められた授業科目も受講できなくなります。

3次受付結果は「LiveCampus」で登録及び修正期間内に各自、確認してください。

(2) キャリア設計科目について

「キャリアモデル学習」「インターンシップ」「ワーキングスキル」の3科目からなります。「キャリアモデル学習」は各学類に関わりの深い職業人による、職業や仕事内容、人生設計などについての講義が中心の科目です。

「インターンシップ」とは、大学に在学したまま、一定期間企業や自治体などで就業体験を行う科目です。実社会での就業体験を通して、社会の基本的なルールやマナーを修得するとともに、自分自身の将来の職業に関する意識を形成することを目的としています。学生が自主的に行うインターンシップについては、キャリア支援課へご相談ください。

「ワーキングスキル」は、めまぐるしく変貌を遂げる現代社会の中で、より豊かなキャリア設計を実現するために、最新のスキルや知識を修得するための科目です。

キャリアモデル学習は、別項目<キャリアモデル学習の履修について>を参照してください。

<インターンシップの履修について>

(2年生以上、食農学類は3年生以上)4月に希望者向けガイダンスを実施しますので、別途掲示等を確認してください。

<ワーキングスキルの履修について>

2年生以上から履修が可能です。

「抽選履修登録方法」は、学術基礎科目と同様の手続きで行いますので、その手続きを確認してください。

(3) 健康・運動科目について

身体運動を楽しみ、生涯を通して、健康でスポーツに親しむ技能・知識を身に付けることを目的として「スポーツ実習」を開講します。

<スポーツ実習の履修について>

「スポーツ実習」は、1年次後期から履修することができます。また、同一種目の

場合でも複数回の履修が可能です。修得した単位は、選択必修または自由選択の単位になります。

第1回目の授業の際に受講調整を行います。集合場所は、第1体育館（入学式と同じ会場）です。筆記用具と屋内シューズ、屋外シューズを持参し運動できる格好で出席してください。欠席すると希望する種目が履修できないことがあります。

スポーツ実習は、履修登録撤回できません。

「スポーツ実習」の履修にあたっては、履修時限の指定はありませんが、教員免許状取得希望者が優先となります。

教員免許状取得のためには、「体育」科目として「健康運動科学実習」1単位に加え「スポーツ実習」1単位の修得が必要です。下記表の曜日・時間において、教員免許状取得希望者を優先としますので、指定された学類の履修時限にて履修をしてください。尚、教員免許取得希望者は、必ず第1回目の授業の際に担当教員に伝えてください。

スポーツ実習	教員免許希望者が優先される学類
月曜日 2時限	行政政策学類、経済経営学類
月曜日 3時限	人間発達文化学類
金曜日 3時限	共生システム理工学類、食農学類

（４）外国語科目について

別項目＜英語、英語以外の外国語の履修について＞を参照してください。

外国人留学生は、同じく＜英語、英語以外の外国語の履修について＞にある＜外国人留学生向け「日本語」及び「日本事情」の履修について＞も参照してください。

（５）情報科目について

高度情報化社会においてパーソナル・コンピュータやネットワークなどの情報機器を適切に操作・活用し、情報の収集・整理・編集・発信・コミュニケーションを主体的に行うための基礎スキルの修得をめざします。具体的には、基本的な情報機器の構成・操作方法を理解し、情報収集、文書作成・データ集計などの方法を学びます。また、インターネットなどの情報発信・コミュニケーションに関わる基礎知識を身につけ、セキュリティなど日頃注意を払うべき事柄と心構えを学びます。

学修内容：コンピュータのしくみ（ハードウェア/OS/ソフトウェア）/ Word、PowerPoint/インターネットと情報セキュリティ/ Excel とその実際/情報倫理/情報の収集・整理・編集の実際
--

＜情報リテラシーの履修について＞

修得単位は、選択必修または自由選択の単位として計上することができます。

なお、教員免許状取得を希望する学生は必ず修得してください。

情報リテラシーは、履修登録撤回できません。

受講を希望する学生は、各自で持ち運び可能なノートパソコンを準備し、大学に持参してきてください。推奨する PC のスペック等については、福島大学ホームページ内の BYOD サポートページ (福島大学トップ > 在学生 > 教務課 (授業・履修案内)) を参照してください。

前期履修手続き

- ・履修手続きは、新入生ガイダンスの時にを行います。「情報リテラシー」の希望クラスを選択のうえ「受講希望調査カード」を提出してください。受講希望に基づき、決定した所属クラスを決定次第、「LiveCampus」及び基盤教育掲示板に掲示します。1 回目の授業を受ける前に必ず所属クラスと教室を確認して履修してください。
 - ・全て同一科目のため複数クラスは受講できません。
 - ・受講希望者数がクラスの収容人数を超えた場合、抽選となります。
 - ・2 年次生以上の学生は、基盤教育係窓口から「受講希望調査カード (2 年次生以上)」を受領し、希望クラスを記入のうえ、基盤教育係窓口へ提出してください。
- 受付期間は 3 月下旬 ~ 4 月初旬です。手続き・詳細は別途掲示でお知らせします。結果は決定次第、掲示します。「情報リテラシー」の履修登録は教務課で行います。

後期履修手続き

- ・前期の履修手続きで後期開講「情報リテラシー」の各クラスに編成された学生は履修希望を再提出する必要はありません。掲示情報を確認し、所属クラスの授業を履修してください。
 - ・前期の履修希望受付期間に「希望調査カード」を提出しなかった後期履修希望学生、再履修希望学生は受講可能なクラスを掲示で確認し、受講希望カードを基盤教育係窓口へ提出してください。
- 受付期間は 9 月下旬です。手続き・詳細は別途掲示でお知らせします。結果は決定次第、掲示します。「情報リテラシー」の履修登録は教務課で行います。

再履修について

- ・「情報リテラシー」の再履修は基本的に認められますが、受講希望人数が収容可能数より多い場合は抽選をおこない、再履修者の受講を決定し、掲示でお知らせします。

(6) 高年次教養科目について

「教養領域」の科目は、学年指定がない限り 1 年次のうちに履修してしまう学生が多いと思います。しかしながら、幅広く他領域の専門内容を理解し、学際性を養うことは、本格的に専門教育を学び始めた 2 年次以上でも大事になってきます。

そのために、「高年次教養科目」という仕組みを設けました。対象となる他学類の専門科目を 2 年次以上で履修した場合に、基盤教育の「教養領域」と「問題探究領域」にまたがる選

択必修の単位として計上することができます。(学類毎の単位数は下表のとおりです。)必修単位分として計上することはできないので注意してください。なお、科目名等は、別途掲示を確認してください。

学類	単位数
人間発達文化学類、行政政策学類、経済経営学類	7 単位
行政政策学類(夜間主)	1 1 単位
共生システム理工学類、食農学類	9 単位
外国人留学生(全学類)	9 単位

(13) キャリアモデル学習の履修について

学類毎の開講となります。詳細は、掲示等でお知らせします。

人間発達文化学類、行政政策学類、経済経営学類は「キャリア設計科目」の中から
選択して修得することになります。

共生システム理工学類、食農学類は、**必ず修得しなければなりません。**

行政政策学類夜間主の学生については、『行政政策学類夜間主学修案内』を確認してください。

開講	科目	担当教員	曜日	時限	履修年次	単位	教室	備考
前期	キャリアモデル学習	開講科目一覧を参照	木	4	2	2	開講科目一覧を参照	人間発達
	キャリアモデル学習	時間割を確認			2	2		行政政策
前期	キャリアモデル学習	福富靖之・吉田樹	木	5	3	2	L 1 / L 4	経済経営
前期	キャリアモデル学習	川崎 興太 他	月	5	2	2	L4	理工
前期	キャリアモデル学習	二瓶 直登 他	火	3	2	2	食農棟 みらい ホール	食農

(14) 問題探究領域の履修について

「問題探究領域」は、東日本大震災や地域の過疎化などの現実的な問題から、「自分事」として取り組むべき課題を発見し、集団で問題解決に向けて調査・議論・実践を行うことを目的としています。これらを踏まえ、以下の科目を開講します。

「教養領域」、「問題探究領域」の各科目区分で必修単位を超えた単位を、選択必修として修得しなければなりません。学類毎の単位数は、下表のとおりです。

学類	単位数
人間発達文化学類、行政政策学類、経済経営学類	7単位
共生システム理工学類、食農学類	9単位
外国人留学生（全学類）	9単位

また、それらを超えた単位は自由選択の単位として計上することができます。

行政政策学類夜間主の学生については、『行政政策学類夜間主学修案内』を確認してください。

(1) 問題探究科目

福島の震災・原発事故に関する問題や、地域や世界の今日的な課題を学び、その原因解明や問題解決方法を考えることを目的とし、「問題解決を基盤とした学習」の中心に位置づく科目です。

具体的な問題解決の事例や各学問によるアプローチの手法を学ぶ講義型科目のほか、学生たちが自ら問題解決に取り組むアクティブ・ラーニング型の科目も開講します。

<問題探究科目の履修について>

2単位を修得しなければなりません。

を超えて修得した単位は選択必修または自由選択の単位として計上することができます。

行政政策学類生は、夜間開講の問題探究科目で受講できる科目があります。

詳細は、行政政策学類の掲示等で確認してください。

科目名称についての注意

・ローマ数字が異なる場合は、別の授業科目となり重ねて履修できます。

例：ふくしま未来学入門 ， 別の科目

「抽選履修登録」は、教養領域の学術基礎科目と同様の手続きで行いますので、その手続きを確認してください。

「受講調整（人数制限）」が行われる場合があります。

(2) 自主学修プログラム

自主学修プログラムは、学生が自主的にグループを組織してテーマ・内容を設定し、任意の教員の指導のもとで学修することにより、単位が認定される制度です。活動は、自主的な協働学習やプロジェクト型の学修が主たる内容です。

自主学修プログラムは、学修の企画を立ち上げ、計画し、実践して成果をまとめるという一連のプロセスを評価し、単位認定します。

<自主学修プログラムの履修について>

修得単位（1単位または2単位 / 認定単位は「N（認定）」評価）は、選択必修または自由選択の単位として計上することができます。

前期申請は4月、後期申請は10月です。詳細は、別途掲示等を確認してください。

(3) 問題探究セミナーについて

別項目<問題探究セミナーの履修について>を参照してください。

(15) 問題探究セミナー の履修について

「問題探究セミナー」は、本学の教育理念でもある「問題解決を基盤とした教育」の入口科目で「スタートアップセミナー」とともに初年次教育の重要な科目であり、「スタートアップセミナー」がアカデミック・スキルズの定着を目的とするのに対し、この科目は現実の問題に対する理解・探究・解決を目的とするものです。すなわち、両者は縦系と横系の関係になります。

行政政策学類夜間主の学生については、『行政政策学類夜間主学修案内』を確認してください。

<問題探究セミナー の履修手続きについて>

2単位を修得しなければなりません。学類毎にクラスが分かれていますので、詳細は、各学類の掲示等で確認してください。

未修得者は、必ず履修登録前に「LiveCampus」/各学類の掲示等で確認の上、教務課各学類窓口で申し出てください。

問題探究セミナー は、履修登録撤回できません。

問題探究セミナー 担当者一覧

人間発達文化学類

授業科目名	クラス	曜日 時限	担当教員	セメスター	単位数	教室
問題探究 セミナー	A	木 3	植田 啓嗣	2	2	M23
	B		富永 美佐子			S44
	C		原野 明子			臨セ音り実
	D		中村 恵子 鶴巻 正子			人 201 演
	E		新井 浩			S22
	F		半沢 康			S23
	G		佐久間 康之			S31
	H		小松 賢司			S33
	J		和田 正樹			S35
	K		杉浦 弘一 松本 健太			S43 M4

行政政策学類

授業科目名	クラス	曜日 時限	担当教員	セメ スター	単位数	教室
問題探究 セミナー	ガイダンスおよび時間割を確認			2	2	

経済経営学類

授業科目名	クラス	曜日 時限	担当教員	セメ スター	単位数	教室
問題探究 セミナー	A	木 3	沼田大輔	2	2	
	B		岩井秀樹			
	C		岩本吉弘			
	D		大川裕嗣			
	E		稲村健太郎			
	F		藤原遥			
	G		根建晶寛			
	H		野口寛樹			
	I		三家本里実			
	J		村上早紀子			
	K		尹卿烈			
	L	木 5	井本亮			
	M	木 3	クズネツォーワ・マリーナ			

共生システム理工学類

授業科目名	クラス	曜日 時限	担当教員	セメ スター	単位数	教室
問題探究 セミナー	A	月 5	衣川 潤	2	2	S 1 1
	B		木村 勝彦	2	2	S 1 2
	C		高貝 慶隆	2	2	S 1 3
	D	木 3	高原 円	2	2	L L 教室
	E	月 5	高安 徹	2	2	S 2 1
	F		永幡 幸司	2	2	S 2 2

	G		藤本 勝成	2	2	S 2 3
	H		三浦 一之	2	2	S 2 8

食農学類（問題探究セミナー）

授業科目名	クラス	担当教員	曜日 時限	セスター	単位数	教室
農場基礎実習	授業内で グループ分け	高田 大輔 他	木 3、4	2	2	農場 ほか

経済経営学類の教育方針

ディプロマ・ポリシー(DP)とカリキュラム・ポリシー(CP)

経済経営学類の教育目標は以下に掲げる ～ の 5 点です。これらの教育目標をもう少し詳しく説明したものをディプロマ・ポリシー (DP : 学位授与の方針) といいます。そして、DP の求める能力を身につけてもらうようにどのようにカリキュラムを編成しているのかを述べたものをカリキュラム・ポリシー (CP : 教育課程編成の方針) といいます。

1. 経済経営学類の教育目標

経済経営学類では、経済と経営の専門知識を身につけ、現代の経済社会を理解し、課題解決に実践的に取り組む人材を養成する。

経済学と経営学の専門知識

エビデンスにもとづいて論理的に思考する力

フィールドを通じて社会の課題に主体的に取り組む力

グローバルに思考し実践に進む力

キャリアを見据え自立し協働する力

2. 経済経営学類ディプロマ・ポリシー (DP : 学位授与の方針)

本学類は、現代社会で起こっている様々な問題に関心を持ち、それらを経済学と経営学の視点でとらえる能力をもつことによって、社会において実践できる人材を養成する。そのため以下の 5 つの能力をディプロマ・ポリシーとして提示する。

経済学と経営学の専門知識

各コースが掲げる専門的力を身につけている。

それを応用して課題を発見、分析し解決に取り組むことができる。

エビデンスにもとづいて論理的に思考する力

量的、質的なデータを適切に収集し、エビデンスにもとづいて分析することができる。

論理的に思考し、多面的かつ柔軟な考察を展開できる。

フィールドを通じて社会の課題に主体的に取り組む力

様々なフィールドを通じて、社会の課題に主体的、実践的に取り組むことができる。

グローバルに思考し実践に進む力

調査研究やコミュニケーションのために実用的な語学力を身につけている。

海外や地域の課題解決に向けて、対象を適切に調査し、実践的に関わるができる。

キャリアを見据え自立し協働する力

人間的な働き方と暮らし方を志向しながら、社会的、倫理的な観点から自らを律するとともに目標設計を主体的に行うことができる。

相手の立場と意見をふまえながら、自分の意見を述べ、討論し、文章で表現できるようなコミュニケーション能力を通じて、他者と共存し協働できる。

3. 経済経営学類カリキュラム・ポリシー（CP：教育課程編成の方針）

経済経営学類では、経済と経営の専門知識を身につけ、現代の経済社会を理解し、課題解決に実践的に取り組む人材を養成する。これにしたがって、本学類のディプロマ・ポリシーでは、経済学と経営学の専門知識、エビデンスにもとづいて論理的に思考する力、フィールドを通じて社会の課題に主体的に取り組む力、グローバルに思考し実践に進む力、キャリアを見据え自立し協働する力の5つを掲げる。これらの達成に向けて、以下の方針でカリキュラムを構築している。

経済学、経営学分野の専門知識を習得させるため、専門教育を系統的に編成する。

1. 第1～3セメスターにおける、経済学・経営学分野の基礎基本に関する一連のリテラシー科目群
2. 第4セメスター以降における、コースごとの系統的編成による専門教育
3. より高度な学修を可能にするアドバンスト科目群（大学院科目など）
4. 4年間を通じた演習形式での小集団教育
5. 必修の卒業研究

エビデンスにもとづいて論理的に思考する力を養成する。

1. リテラシー科目から卒業研究に至る科目編成を通じて、論理的思考力を育成する。
2. データを適切に収集し客観的に分析する力を養成するための調査法とデータ分析手法に関する科目群（調査・分析スキルズ）

フィールドを通じて社会の課題に主体的に取り組む力を養成する。

1. 課題解決に向けて主体的に取り組む力を養成する、演習形式の実践的科目群
2. 企業・各種団体など様々な外部組織と大学が協同運営する「コーオペ演習」および「連携講義」

社会のグローバルな要請に対応するための実践的な教育を展開する。

1. 幅広い世界認識と多文化理解、外国語能力の重点的向上を目指す特別な学修プログラム、海外での学修を組み入れた実践的科目群
2. グローバルな課題に取り組む思考力と実践力を身につけるための、座学とフィールドワークの連結
3. ローカルな課題に取り組む思考力と実践力を身につけるための、座学とフィールドワークの連結

キャリアを見据え自立し協働する力を養成する。

1. 労働と生活にかかわる制度や状況を整理し、これからの働き方と暮らし方を示す科目群
2. 幅広い教養と自己認識を深め、コミュニケーション能力を高めることによって、自立する力、協働する力を養成

- ・アドバイザー教員による履修計画及び学生生活全般に係る助言指導体制をおく。

経済経営学類の教育内容

・学類カリキュラムマップ

カリキュラムマップは1年次・第1セメスターから4年次・第8セメスターまでの、各セメスターでの標準的な学修の流れを示したものです。

各自の志向や実際の履修状況、単位修得の状況によって学修の道りは変わってきます。科目区分や単位数などは履修基準表で確認してください。

		1年次	
		第1 Semester	第2 Semester
基盤教育	外国語コミュニケーション科目、 外国語科目	【英語、英語以外の外国語】 ドイツ語・フランス語・ロシア語・中国語・韓国朝鮮語	
	学術基礎科目、 健康・運動科目、 情報科目	【学術基礎科目（人文科学分野・社会科学分野・自然科学分野）、健康運動科学実習・スポーツ実習、情報リテラシー】	
	スタートアップ科目	スタートアップ・セミナー	
	問題探究セミナー		問題探究セミナー
専門教育	学類基礎科目	【リテラシーA】	
		入門マクロ経済学、入門政治経済学、入門経営学、簿記概論	入門ミクロ経済学、簿記概論
			【リテラシーB】
			歴史と経済、基礎経営学、多文化理解
	コース専門科目	【グローバル・エキスパート・プログラム】	
自由選択	【選択必修科目の要卒超過分、自己学修プログラム、他学類開放科目など】		

		2年次	
		第3セメスター	第4セメスター
基盤教育	外国語コミュニケーション科目、 外国語科目	【英語、英語以外の外国語】 ドイツ語・フランス語・ロシア語・中国語・韓国朝鮮語	
	キャリア設計科目	インターンシップ、ワーキングスキル	
	学術基礎科目、 健康・運動科目、 情報科目	【学術基礎科目（人文科学分野・社会科学分野・自然科学分野）、健康運動科学実習・スポーツ実習、情報リテラシー】	
専門教育	問題探究科目	問題探究セミナー	
	学類基礎科目	【リテラシーA】 入門統計学	
		【リテラシーB】 ミクロ経済学、マクロ経済学 、世界経済論、 地域と経済、基礎経営学 、入門会計学	
	コース専門科目		【経済学コース専門科目】 経済理論モデル グローバル経済モデル
【経営学コース専門科目】			

			<p>地域経営モデル 会計ファイナンスモデル</p>
			<p>専門演習・AL 科目群</p>
			<p>【会計エキスパート・プログラム】 【キャリア・リテラシー】 【調査・分析スキルズ】</p>
		<p>【グローバル・エキスパート・プログラム】</p>	
<p>自由選択</p>	<p>【選択必修科目の要卒超過分、自己学修プログラム、他学類開放科目など】</p>		

		3 年次	
		第 5 セメスター	第 6 セメスター
基盤 教育			
	キャリア設計科目	キャリアモデル学習	
専門 教育	コース専門科目	【経済学コース専門科目】	
		経済理論モデル グローバル経済モデル	
		【経営学コース専門科目】	
		地域経営モデル 会計ファイナンスモデル	
		専門演習・AL 科目群	
		【グローバル・エキスパート・プログラム】 【会計エキスパートプログラム】【キャリア・リテラシー】 【調査・分析スキルズ】	
自由選択		【選択必修科目の要卒超過分、自己学修プログラム、他学類開放科目など】	

		4 年次	
		第 7 セメスター	第 8 セメスター
基盤 教育			
専門 教育	コース専門科目	【経済学コース専門科目】	
		経済理論モデル グローバル経済モデル	
		【経営学コース専門科目】	
		地域経営モデル 会計ファイナンスモデル	
		卒業研究演習	卒業研究演習
			卒業研究
自由選択		【選択必修科目の要卒超過分、自己学修プログラム、他学類開放科目など】	

コースとモデルについて

1. 経済経営学類の専門教育の構成

経済経営学類の専門教育はおおよそ次のような流れで構成されます。

まず、第1 Semesterから第3 Semesterでは「リテラシーA」「リテラシーB」科目という経済学・経営学の基幹的科目を学びます。リテラシーA・B科目は専門教育の入門科目という位置づけです。

第4 Semesterからは「経済学コース」または「経営学コース」のどちらかに所属し、本格的に展開されていく「コース専門科目」によって系統的な学修を深めていきます。また、各コースには望ましい履修パターンとしての「モデル」があります（各コースの概要は次項以降のコース概要を参照してください）。

経済学コース： 経済理論モデル、グローバル経済モデル

経営学コース： 地域経営モデル、会計ファイナンスモデル

あわせて、小集団学修方式による学修として、第1 Semesterの「スタートアップ・セミナー」、第2 Semester「問題探究セミナー」、第3 Semester「問題探究セミナー」、本格的な専門教育の段階に入り、第4～6 Semester「専門演習」、そして、学修の集大成としての第7・8 Semester「卒業研究演習」と「卒業研究」に続いていきます（詳しくは「カリキュラムマップ」「履修基準表」「開講科目一覧」「専門領域の履修について」を相互に参照してください）。

2. コース所属について

コース所属は第3 Semesterの所定の期間に、希望に基づいて決定されます。

学生の希望が尊重されますが、希望者が定員を超えたコースについては、それまでの成績に基づいて決定されます。

コース定員

経済学コース：120名

経営学コース：100名

コースの定員超過の場合の決定方法

- (1) 第2 Semesterまでの総修得単位数（N認定科目を含む）が32単位以上の者を優先する
- (2) (1)の者を対象に、総GPAの順位で決定
- (3) その後、第2 Semesterまでに32単位未満の者の修得単位数にしたがって決定

学生は必ずどちらかのコースに所属しなければなりません。コースは原則として変更することはできません。ただし、正当な理由によって第5 Semesterから転コースを希望する学生については、所定の手続きを経て、認否を決定します。

経済学コース

1. コース概要

経済学コースは、これまでの経済分析専攻と国際地域経済専攻をひとつに統合したコースです。経済社会の課題、歴史と現在と未来を考えるために、各教員がこれまで以上に密接に協力し合って研究と教育を進めます。学生のみなさんにとって、科目が選びやすくなり、経済社会をより多角的に理解することにつながります。

経済理論モデル

「物価が下がってきている」「株価が上昇している」「人手不足が深刻になりつつある」といった経済事象について、その背景にある要因を探ったり、適切な対応方法を選択したりするためには、経済理論の理解が不可欠です。これまでに積み重ねられてきた経済理論をその歴史的な経緯も含めて体系的に理解し、現実の経済問題に適応することができる人材の育成を目指します。

グローバル経済モデル

Think Globally, Act Locally. グローバリゼーションが進む現代では、地域で活躍する場合でも、世界的規模で考え、分析することが必要です。国際経済学などグローバルな視野に立った経済学・経営学をはじめ、欧米やアジア地域を対象とした科目を学んだ上で、グローバル・エキスパート・プログラムで実践的語学力を身につけることで、グローバル人材育成を目指します。

2. 望ましい履修パターン

セメスター	経済理論モデル	グローバル経済モデル
1	リテラシーA：入門マクロ経済学 入門政治経済学	入門経営学 簿記概論
2	リテラシーA：入門ミクロ経済学 簿記概論 リテラシーB：歴史と経済 多文化理解	
3	リテラシーA：入門統計学 リテラシーB：ミクロ経済学Ⅰ マクロ経済学Ⅰ	世界経済論 地域と経済 入門会計学
4	ミクロ経済学 マクロ経済学 入門金融論 経済数学 経済政策 地域経済論 経済学史 統計学概論 財務諸表論	ミクロ経済学 マクロ経済学 社会開発論 調査法 経済政策 地域経済論 経済学史 統計学概論 国際関係論

5 ~ 8	国際経済学	応用経済分析		
	公共経済学	環境経済学		
	産業組織と規制の経済学		地方財政論	地域政策論
	計量経済学	産業連関分析	交通政策論	日本経済論
	国際金融論	地域金融論	開発経済学	世界経済論
	財政学	地方財政論	アメリカ経済論	欧州経済論
	社会政策	労働経済	アジア経済論	社会思想史
	地域政策論	交通政策論	日本経済史	比較経済史
	日本経済論	社会思想史	政治経済学	環境経済学
	日本経済史	比較経済史	産業連関分析	国際経営論
	政治経済学		国際経済学	国際金融論
	卒研のための統計分析		調査法	
	財務管理論	現代ファイナンス論	海外調査	
	財務諸表論			

(注) 上記はあくまでも望ましい履修パターンで、パターンどおりの履修を強制するものではありません。

経営学コース

1. コース概要

経営学コースでは、非営利組織(自治体、NPO など)を含め、より幅広い視野で経営現象を捉えます。とりわけ、地域経済と経営、会計とファイナンス(金融)について、基礎を修めながら垣根を越えて学びます。

経営学コースには履修モデルとしての「地域経営モデル」と「会計ファイナンスモデル」があります。

地域経営モデル

少子高齢化や人口減少などの課題を抱えている地方都市、いわば「課題先進地域」といえる地方都市をフィールドに、経営分野と地域経済分野について重点的に学びます。これによって、マネジメントと地域振興の視点を併せ持った人材の育成を目指します。

会計ファイナンスモデル

企業活動の結果分析と将来に向けた適切な経営意思決定を行うために必要とする会計情報を活用できるスキルと知識の習得を目指します。また、外部報告のための財務会計、経営管理のための管理会計、財務管理のためのファイナンス手法を体系的に学修し、会計数値を経営行動に活用できる人材の育成を目指します。

2. 望ましい履修パターン

セメスター	地域経営モデル	会計ファイナンスモデル
1	リテラシーA：入門マクロ経済学 入門政治経済学 入門経営学 簿記概論	
2	リテラシーA：入門ミクロ経済学 簿記概論 リテラシーB：歴史と経済 多文化理解 基礎経営学	
3	リテラシーA：入門統計学 リテラシーB：ミクロ経済学 マクロ経済学 世界経済論 地域と経済、基礎経営学 入門会計学	
4	経営戦略論、経営組織論、組織行動論、マーケティング論、統計学概論 原価計算、財務諸表論、中級簿記 ミクロ経済学、経済政策	
	地域経済論、調査法	租税法概論、マクロ経済学、入門金融論
5～8	国際経営論、地域企業経営論、人的資源管理論、コーオペ演習 コスト・マネジメント、管理会計、原価計算、財務管理論 地域金融論、産業連関分析、産業組織と規制の経済学、社会政策 計量経済学、卒研のための統計分析	
	消費者行動論、環境経済学、地域政策論、交通政策論、労働経済、調査法、コーオペ演習、経営情報分析、地方財政論	国際金融論、経営情報分析、租税法、上級簿記、証券市場論 財務諸表監査、財務諸表論 労働経済、租税法、現代ファイナンス論

(注) 上記はあくまでも望ましい履修パターンで、パターンどおりの履修を強制するものではありません。

コース横断プログラムと科目

経済経営学類では、専門教育の中核をなす経済学・経営学の2コースのほか、経済経営学類生全員に学修を奨励するエキスパートプログラムと一連の科目群を用意しています。コースやモデルの垣根に拘らない、幅広い履修を奨励します。

1. グローバル・エキスパート・プログラム

「グローバル・エキスパート・プログラム」は、異なる文化的背景を持つ人々の中で他者に共感しつつ、自らの周りの諸課題を地球規模で考える人材育成を目的とするプログラムです。

本プログラムでは、入学後の半年間は集中的に英語を学び、英語で発表する、議論するなど、実践的な英語力を磨いていきます。また欧州評議会が提案する複言語主義に基づき、日本語、英語とともに、英語以外の外国語を学修し、三言語の運用能力の向上を目指します。身につけた外国語運用能力を武器に、留学、海外調査、海外インターンシップなど様々な異文化体験を積むことができます。下記の条件を満たした学生に、学修の証しとして、6セメ終了時に「プログラム認定証」が発行されるので、就職活動の際、海外での経験、技能審査の成績などを具体的にアピールすることができます。

グローバル・エキスパート・プログラムのメリット

● グローバル社会を疑似体験できる

福島大学では、現在19カ国からの留学生が学んでいます。また、経済経営学類には、ロシア、ドイツ、アメリカ、韓国、中国出身の教員がいます。外国語の習得はもちろんですが、多様な人々と交流しながら異文化経験を積むことができます。

● 幅広い知識を得られる

外国語を習得する上で、その背後に潜む文化を理解することは欠かせません。歴史、慣習、言語、文学、芸術、行動様式など各国の文化的特徴についての専門講義を履修することにより、幅広いものの見方、柔軟な思考を身につけることができます。

● 就職活動に活用できる

就職活動の際、エントリーシートや面接などで「大学で何を学んだか」を聞か

れた場合に、海外での経験、検定試験の成績などに基づいて具体的にアピールすることができます。就職活動で活用したい方は、計画的な履修を心がけ、下記認定要件を満たしてください。

グローバル・エキスパート・プログラム履修開始から認定までの流れ

(1) ガイダンスへの参加

入学式後にグローバル・エキスパート・プログラムに関するガイダンスが開催されます。ここで、プログラムの内容、認定要件などを確認してください。下記「望ましい履修パターン」を参考にして、卒業時までには30単位習得することを目指します。

(2) プログラム授業科目の履修

- 1年次～2年次（外国語運用能力の向上）

基盤教育外国語とアドバンスト演習の履修を通して、必要な当該外国語の運用能力を身につけてください。

基盤教育外国語の必修単位数は、英語を主として学ぶ場合、英語8単位・非英2単位、非英を主として学ぶ場合、英語4単位・非英6単位が標準です。

英語を主として学ぶ場合、1年次には基盤教育外国語と英語アドバンスト演習を組み合わせ、極力「毎日」英語を履修しましょう。

2セメスターに開講される「多文化理解」は必ず履修してください。

- 2年次～3年次（異文化体験）

グローバル演習科目の履修を通して、海外で様々な活動を経験してください。また、引き続きアドバンスト演習を履修することで、中長期の留学に必要な語学力を磨いてください。

グローバル演習科目を履修しない場合は、所定の外部技能審査で必要単位を満たすことができます。

- 3年次～4年次（幅広い知識の修得および留学）

プログラム関連専門科目の履修を通して、外国語運用能力の先にある学問の世界を覗いてみましょう。また、学修の集大成として、中長期の留学を目指しましょう。

(3) プログラム認定証の発行

就職活動などで、プログラムの履修をアピールしたい場合には、6セメ終了時に「プログラム認定証」を発行することができます。

具体的な履修手続きについては「3.経済経営学類が卒業するためには」の「専門教育の履修について」を参照してください。

2. 会計エキスパート・プログラム

2019年度より開始した「会計エキスパート・プログラム」については、

(ア) 検定試験の合格にもとづく単位認定

(イ) 一部科目の早期履修

というしくみとなっています。認定要件を満たした者は「会計エキスパート・プログラム修了証」が授与されます。自己申告制ですので、教務課窓口にて申請してください。

(ア) 検定試験* の合格にもとづく単位認定

・全商(1級)または日商(3級, 2級, 1級のいずれか)の合格

「簿記概論」「簿記概論」(各2単位)の単位を認定する。成績評価は「N」。

・日商(2級または1級)の合格

「中級簿記」(2単位)の単位を認定する。成績評価は「N」。

以上については、入学時に限定しません。各セメスター履修登録時の事前申請とします。なお、高校1種教育職員免許状「商業」の取得を目指す場合には「簿記概論」「簿記概論」の単位認定を申請せず履修登録をおこなうこと。

(イ) 一部科目の早期履修

入学前に全商(1級)あるいは日商(2級または1級)に合格している者は、申請により、以下の科目について、早期履修が可能です。

・「入門会計学」..... 第3セメスター 第1セメスター。

・「中級簿記」..... 第4セメスター 第2セメスター。

プログラム認定要件

・会計学関連分野の学類専門科目(「簿記概論」「簿記概論」を除く。＜別表1＞参照)の単位を20単位以上修得すること。

・大学院の会計税務プログラム科目(特殊研究。＜別表2＞参照)から、ア

ドバンスト科目として2単位以上修得すること。

・本学入学後に日商（2級または1級）を受験し、合格すること。

<別表1> 会計エキスパート・プログラム認定対象学類科目

（第3 Semester）入門会計学

（第4 Semester）中級簿記，原価計算，財務諸表論，租税法概論

（第5 Semester）財務管理論，経営情報分析，上級簿記，原価計算，管理会計，財務諸表論，財務諸表監査，租税法

（第6 Semester）現代ファイナンス論，コスト・マネジメント，租税法

<別表2> 会計エキスパート・プログラム認定対象大学院科目

原価計算論特殊研究，管理会計論特殊研究，コスト・マネジメント特殊研究，価値創造会計特殊研究，財務諸表論特殊研究，財務報告論特殊研究，租税法特殊研究，会計実務特殊研究

*以下の略称を用います。

全商：全国商業高等学校協会主催簿記実務検定試験

日商：日本商工会議所主催簿記検定試験

修了認定申請時期

学年にかかわらず、認定要件を満たせば申請することができます。申請時期は毎年3月、9月を予定しています。

3. キャリア・リテラシー

昨今「働き方改革」やワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）の重要性が叫ばれています。経済経営学類では、多角的で現実的な内容をもった「キャリア形成論」をはじめ、労働制度や社会保障についての科目を通じて、身を守ることも学んでもらう科目群を用意しています。

第1 Semester：「キャリア形成論」

第2 Semester：「基礎経営学Ⅰ」

第4 Semester：「組織行動論」

第4 Semester以降：各「コーオプ演習」

第5・6 Semester：「キャリアモデル学習」「社会政策」「労働経済」「人的資源管理論」

これらを、これからの「働き方と暮らし方」を学ぶための科目群として位置づけています。

4．調査・分析スキルズ

大学で学び、考え、発信していく方法として、調査・分析にかかわる適切な知識・技術を身につけることは、卒業研究をはじめすべての学術的議論の根幹をなす重要なスキルです。経済経営学類では経済学・経営学分野で特に重視されるスキルを習得する科目群を「調査・分析スキルズ」として位置づけています。

第3セメスター：「入門統計学」

第4セメスター：「統計学概論」

第5・6セメスター：「計量経済学」「卒研のための統計分析」「産業連関分析」「経営情報分析」「調査法（質問紙）」「調査法（フィールド）」「海外調査：欧米」「海外調査：アジア」

上記のプログラムおよび科目群は両コースを横断する科目群として位置づけられていますが、個別の科目のコース専門科目での位置づけは「開講科目一覧」を参照してください。

経済経営学類生が卒業するためには

履修基準表

履修基準

領域区分	科目区分	開設科目等	履修開始 セメスター	1科目 単位数	分類 (注1-4)	要卒単位	
基盤教育	接続領域	スタートアップ科目	スタートアップセミナー	1	2	必修	2
		ライフマネジメント科目	キャリア形成論	1	2		2
			健康運動科学実習	1	1		1
			外国語コミュニケーション科目(注6、7)	英語A・A	1		1
			英語以外の外国語基礎	1	1		2
		(小計)				11	
	教養領域	学術基礎科目	人文科学分野の科目	1	2	必修	2
			社会科学分野の科目	1	2		2
			自然科学分野の科目	1	2		2
		キャリア設計科目	キャリアモデル学習	5	2	選必	2
			インターンシップ	3	1または2		
			ワーキングスキル	3	1または2		
		健康・運動科目	スポーツ実習	2	1	自由	
		外国語科目 (注6、8、9)	英語B・B	3	1	必修	4
			応用英語	1	1		
			英語以外の外国語基礎(特設)	1	1		
			英語以外の外国語応用	3	1		
	情報科目	情報リテラシー	1	2	選必		
	問題探究領域	問題探究科目		1	2	選必	2
		自主学修プログラム		1	1または2	自由	
		問題探究セミナー	問題探究セミナー	2	2	必修	2
		(小計)					23
	(合計)					34	
専門教育	学類基礎科目	リテラシーA	1	2	必修	14	
		リテラシーB	2	2	選必	14	
	問題探究科目	問題探究セミナー	3	2	必修	2	
	コース専門科目	コース専門科目群	1	2	選必	32	
		専門演習	4~6	2	選必		
		AL科目群(注10)	3	2			
		卒業研究演習	7	2			
		卒業研究演習	8	2	必修	2	
		特殊講義	1	2	自由		
	卒業研究	卒業研究	8	4	必修	4	
(合計)					74		
自由選択	自由選択科目		1	1または2		16	
全体	(総計)					124	

(注)

- 「選必」は同じ科目区分内で選択必修として、「自由」は自由選択科目として要卒単位の計上できます。
- 「必修」は、必修の要卒単位を超えて修得した単位を自由選択に計上できます。
- 「選必」は、同じ科目区分内で選択必修の要卒単位を超えて修得したものを自由選択に計上できます。
- 「選必」は、選択必修の要卒単位を超えて修得したものをコース専門科目として計上できます。
なお、コース専門の要卒単位を満たしている場合は、自由選択に計上できます。
- 教養領域と問題探究領域科目については、各区分の要卒単位を満たした上、更に7単位を履修する必要があります。
なお、要卒単位を超えて修得した単位は、自由選択の単位として計上できます。
- 接続領域及び教養領域の「英語以外の外国語」は同一言語で修得する必要があります。
- 接続領域の「英語以外の外国語」で要卒単位を超えて修得した単位は、自由選択の単位として計上できます。
- 教養領域の外国語科目必修4単位の修得方法は、「英語4単位」「英語以外の外国語4単位」「英語2単位+英語以外の外国語2単位」のいずれか
- 編入学生(日本国籍を有しない者)の「英語以外の外国語」に関して、日本語の履修を認めることがあります。
- AL(アクティブラーニング)科目とは、「卒研のための統計分析」「コープ演習」「海外調査」「グローバル演習(「WEA」・「JSP」)」「ドイツ語実践演習」・「ロシア語実践演習」・「特別演習」を指します。

履修基準（外国人留学生）

領域区分	科目区分	開設科目等	履修開始 セメスター	1科目 単位数	分類 (注1-4)	要卒単位	
基盤教育	接続領域	スタートアップ科目	スタートアップセミナー	1	2	必修	2
		ライフマネジメント科目	キャリア形成論	1	2		2
			健康運動科学実習	1	1		1
	教養領域	外国語コミュニケーション科目	英語A・A	1	1	必修	8 (注6)
			英語B・B	3	1		
			応用英語	1	1		
			英語以外の外国語基礎	1	1		
			英語以外の外国語基礎(特設)	1	1		
			英語以外の外国語応用	3	1		
		日本語科目	日本語～	1	1	選必	/
		日本事情	日本事情～(注7)	1	2		
		学術基礎科目	人文科学分野の科目	1	2	必修	2
			社会科学分野の科目	1	2		2
			自然科学分野の科目	1	2		2
	キャリア設計科目	キャリアモデル学習	5	2	選必	2	
		インターンシップ	3	1または2			
		ワーキングスキル	3	1または2			
	健康・運動科目	スポーツ実習	2	1	自由	/	
	情報科目	情報リテラシー	1	2	選必	/	
	問題探究領域	問題探究科目		1	2	選必	2
自主学修プログラム			1	1または2	自由	/	
問題探究セミナー		問題探究セミナー	2	2	必修	2	
(合計)						34	
専門教育	専門領域	学類基礎科目	リテラシーA	1	2	必修	14
			リテラシーB	2	2	選必	14
		問題探究科目	問題探究セミナー(注8)	3	2	選必	2
		コース専門科目	コース専門科目群	1	2	選必	32
			専門演習	4～6	2	選必	6
			AL科目群(注9)	3	2		
			卒業研究演習	7	2	必修	2
			卒業研究演習	8	2		
		特殊講義	1	2	自由		
		卒業研究	卒業研究	8	4	必修	4
(合計)						74	
自由選択	自由選択科目		1	1または2		16	
全体	(総計)					124	

(注)

- 「選必」は同じ科目区分内で選択必修として、「自由」は自由選択として要卒単位の計上できます。
- 「必修」は、必修の要卒単位を超えて修得した単位を自由選択に計上できます。
- 「選必」は、同じ科目区分内で選択必修の要卒単位を超えて修得したものを自由選択に計上できます。
- 「選必」は、選択必修の要卒単位を超えて修得したものをコース専門科目として計上できます。
なお、コース専門の必要単位を満たしている場合は、自由選択に計上できます。
- 教養領域と問題探究領域科目については、各区分の要卒単位を満たした上、更に9単位を履修する必要があります。
なお、要卒単位を超えて修得した単位は、自由選択の単位として計上できます。
- 外国語コミュニケーション科目・外国語科目・日本語科目の中から母語・母国語系統言語を除く1カ国語で8単位を修得する必要があります。なお、要卒単位(8単位)を超えて修得した単位は、選択必修または自由選択に計上できます。
- 「日本事情～」は、選択必修または自由選択として単位に計上できます。
- 留学生は問題探究セミナーIIが「選必」になります。
- AL(アクティブラーニング)科目とは、「卒研のための統計分析」「コーオプ演習」「海外調査」「グローバル演習(WEA・JSP)」ドイツ語実践演習・ロシア語実践演習・特別演習を指します。

履修基準表の見方

(1) 履修基準表の体系と各区分別の要卒単位

本学類が定めた履修基準表は、大きく「基盤教育」「専門教育」から構成され、全学と本学類の教育目標を達成するために各区分別に多数の科目が配置されています。

学生のみなさんが卒業するためには、卒業要件として定められた各科目区分の要卒単位を修得する必要があります。履修基準表には、大切な履修や卒業要件に関する注意事項が記載されていますので、必ず目を通し内容を熟知してください。また、授業科目を履修し単位を修得する際は、履修基準表、カリキュラムマップ、各科目のシラバスを熟読し、履修方法・履修条件等を確認して、履修計画を立ててください。

履修基準表における各科目の分類

履修計画を立てる際、各区分別の科目分類を正しく理解する必要があります。

履修基準表で示されている4つの分類は以下のようになっています。

分類		要卒単位を 超えた単位
選必	同じ区分内の複数科目から、要卒単位を満たすまで選択履修する必要がある科目	自由選択に計上
選必	「選必」と同様であるが、超過履修単位がコース専門科目に計上される科目 (主に専門科目)	コース専門科目 自由選択に計上
必修	必修的に履修する必要がある科目	自由選択に計上
自由	自由選択科目として要卒単位に計上	自由選択に計上

(2) 要卒単位

卒業するために最低限修得しなければならない単位を「要卒単位」といいます。要卒単位は以下のとおりです。

卒業するためには、履修基準表に示される各科目区分の要卒単位を満たした上で、合計 124 単位を修得しなければなりません。

履修基準表に定められた各区分別の要卒単位

領域区分		科目区分	要卒単位
基盤教育	接続領域	スタートアップ科目 ライフマネジメント科目 外国語コミュニケーション科目	11
	教養領域	学術基礎科目 キャリア設計科目 健康・運動科目 外国語科目 情報科目	23
	問題探究領域	問題探究科目 自主学修プログラム 問題探究セミナー	
専門教育	専門領域	学類基礎科目 問題探究科目 コース専門科目 卒業研究	74
自由選択		自由選択科目	16
(総計)			124

詳細は前項の履修基準表をよく読んでください。

(3) 卒業研究提出資格要件

履修基準表に示されるように、「卒業研究」は必修科目です。卒業研究には、以下の提出資格要件があります。卒業研究提出資格要件を満たさなかった場合、4年間で卒業することができなくなりますので、注意してください。

第 8 セメスターに卒業研究を提出するためには、第 6 セメスター経過時に、卒業要件単位のうち 80 単位を修得しなければなりません。

第 6 セメスターの後のセメスター経過時に、80 単位の要件を満たしたときには、その翌々セメスターにおける卒業研究提出資格を得ることになります。

各領域開講科目一覧

各領域の履修について

1. 授業科目一覧

2022年度基盤教育 各領域開講科目一覧

(1) 接続領域【スタートアップ科目】及び問題探究領域【問題探究セミナー】

<注意>下表のとおり、「スタートアップセミナー」及び「問題探究セミナー」はセットでの履修となります。

履修登録は、4月のガイダンス時に決定したクラスを、登録します。

開講	科目	担当教員	曜日	時限	履修開始 セメスター	単位	備考
前	スタートアップセミナーA	荒知宏	木 (前・後)	3 ()	1	2	
後	問題探究セミナーI A	沼田大輔			2	2	
前	スタートアップセミナー B	岩井秀樹			1	2	
後	問題探究セミナーI B				2	2	
前	スタートアップセミナー C	岩本吉弘			1	2	
後	問題探究セミナーI C				2	2	
前	スタートアップセミナー D	大川裕嗣			1	2	
後	問題探究セミナーI D				2	2	
前	スタートアップセミナー E	平野智久			1	2	
後	問題探究セミナーI E	稲村健太郎			2	2	
前	スタートアップセミナー F	藤原遥			1	2	
後	問題探究セミナーI F				2	2	
前	スタートアップセミナー G	根建晶寛			1	2	
後	問題探究セミナーI G				2	2	
前	スタートアップセミナー H	野口寛樹			1	2	
後	問題探究セミナーI H				2	2	
前	スタートアップセミナー I	三家本里実			1	2	
後	問題探究セミナーI I				2	2	
前	スタートアップセミナー J	村上早紀子			1	2	
後	問題探究セミナーI J				2	2	
前	スタートアップセミナー K	尹卿烈			1	2	
後	問題探究セミナーI K				2	2	
前	スタートアップセミナー L	福富靖之			1	2	
後	問題探究セミナーI L	井本亮			2	2	
前	スタートアップセミナー M	吉川宏人	1	2			
後	問題探究セミナーI M	クズネツォーワ・マリーナ	2	2			

井本亮の「問題探究セミナー」は、木曜5限に開講します。
未修得者は、必ず履修登録前に教務課窓口で申し出てください。

令和4年(2022)年度 基盤教育【共通領域】科目授業一覧表

【 】書きは、旧カリ科目用名称

キャリア形成論

205(2F演習室)(情報基盤センター)

開講	科目	担当教員	曜日	時限	履修年次	単位	教室	備考
前期	キャリア形成論(人)	川田 潤・富永 美佐子・小野原 雅夫・保木井 啓史	水	2	1	2	遠隔	
前期	キャリア形成論(行)A	西田 奈保子	水	2	1	2	遠隔	
前期	キャリア形成論(行)B	新藤 雄介	水	2	1	2	遠隔	
前期	キャリア形成論(経)	岩井 秀樹	水	2	1	2	L-1	
前期	キャリア形成論(理)	吉田 龍平	水	2	1	2	L-4	
前期	キャリア形成論(食)	小山 良太	水	2	1	2	205(2F演習室)	

健康運動科学実習【健康・運動科学実習】

開講	科目	担当教員	曜日	時限	履修年次	単位	雨天時 教室	備考
前期	バドミントン	(非)沖 和砂	月	2	1	1		行政政策学類
前期	バスケットボール	杉浦 弘一	月	2	1	1	S-41	
前期	サッカー	(非)黒澤 尚	月	2	1	1	S-43	
前期	卓球	(非)渡部 琢也	月	2	1	1	S-44	
前期	ゴルフ	(非)高橋 弘彦	月	2	1	1		
前期	ゴルフ	(非)高橋 弘彦	月	3	1	1		人間発達文化学類
前期	ソフトボール	蓮沼 哲哉	月	3	1	1	S-33	
前期	バドミントン	(非)沖 和砂	月	3	1	1	S-41	
前期	卓球	(非)渡部 琢也	月	3	1	1	S-41	
前期	バスケットボール	本嶋 良恵	月	3	1	1	S-43	
前期	サッカー	(非)黒澤 尚	月	3	1	1	S-44	
前期	テニス	安田 俊広	月	3	1	1		経済経営学類
前期	バドミントン	(非)工藤 孝幾	火	3	1	1		
前期	テニス	安田 俊広	火	3	1	1	S-41	
前期	バレーボール	小川 宏	火	3	1	1	S-42	
前期	フィットネス	本嶋 良恵	火	3	1	1	S-43	
前期	アルティメット	杉浦 弘一	火	3	1	1		共生システム理工学類
前期	ゴルフ	川本 和久	火	3	1	1		
前期	バドミントン	竹田 隆一	金	3	1	1		
前期	卓球	小川 宏	金	3	1	1	S-41	
前期	バスケットボール	杉浦 弘一	金	3	1	1	S-44	
前期	ソフトボール	(非)諏訪 雅貴	金	3	1	1		食農学類
前期	バスケットボール	杉浦 弘一	金	4	1	1	S-41	
前期	ソフトボール	(非)諏訪 雅貴	金	4	1	1	S-41	
前期	卓球	小川 宏	金	4	1	1	S-44	

英語A・A

LL教室、AV教室(M講義棟3階)

開講	科目	担当教員	曜日	時限	履修年次	単位	教室	備考
前期	英語A 01	(非)芝田 直久	月	2	1	1	S-23	人間発達文化・共生システム理工学類
前期	英語A 02	佐久間 康之	月	2	1	1	S-14	
前期	英語A 03	佐々木 俊彦	月	2	1	1	S-35	
前期	英語A 04	吉高神 明	月	2	1	1	S-11	
前期	英語A 05	(非)九頭見 理香	月	2	1	1	S-33	
前期	英語A 06	(非)渡邊 真由美	月	2	1	1	S-36	
前期	英語A 07	(非)植竹 大輔	月	2	1	1	S-38	
前期	英語A 08	(非)志子田 真由子	月	2	1	1	S-31	
前期	英語A 09	(非)ジョン・ティルマント	月	2	1	1	S-34	
前期	英語A 10	(非)ロナルド・ブレンド・スコット	月	2	1	1	S-22	
前期	英語A 21	松浦 浩子	月	3	1	1	L.L	行政政策・経済経営学類
前期	英語A 22	佐々木 俊彦	月	3	1	1	S-35	
前期	英語A 23	(非)渡邊 真由美	月	3	1	1	S-36	
前期	英語A 24	(非)植竹 大輔	月	3	1	1	S-38	
前期	英語A 25	(非)芝田 直久	月	3	1	1	S-32	
前期	英語A 26	(非)志子田 真由子	月	3	1	1	S-31	
前期	英語A 27	(非)長谷川 明子	月	3	1	1	S-21	
前期	英語A 28	(非)ジョン・ティルマント	月	3	1	1	S-34	
前期	英語A 29	(非)ロナルド・ブレンド・スコット	月	3	1	1	S-22	
前期	英語A 30	(非)齊藤 元康	月	3	1	1	S-42	
前期	英語A 61	佐久間 康之	火	4	1	1	S-14	食農学類
前期	英語A 62	(非)長谷川 明子	火	4	1	1	S-21	
後期	英語A 11	(非)芝田 直久	月	2	1	1	S-23	人間発達文化・共生システム理工学類
後期	英語A 12	高木 修一	月	2	1	1	S-41	
後期	英語A 13	佐々木 俊彦	月	2	1	1	S-35	
後期	英語A 14	吉高神 明	月	2	1	1	S-11	
後期	英語A 15	(非)九頭見 理香	月	2	1	1	S-33	
後期	英語A 16	(非)渡邊 真由美	月	2	1	1	S-36	
後期	英語A 17	(非)植竹 大輔	月	2	1	1	S-38	
後期	英語A 18	(非)志子田 真由子	月	2	1	1	S-31	
後期	英語A 19	(非)ジョン・ティルマント	月	2	1	1	S-34	
後期	英語A 20	(非)ロナルド・ブレンド・スコット	月	2	1	1	S-22	
後期	英語A 41(上級)	松浦 浩子	月	2	1	1	L.L	食農学類も受講可
後期	英語A 42(基礎)	(非)齊藤 元康	月	2	1	1	S-42	
後期	英語A 31	松浦 浩子	月	3	1	1	L.L	行政政策・経済経営学類
後期	英語A 32	佐々木 俊彦	月	3	1	1	S-35	
後期	英語A 33	(非)渡邊 真由美	月	3	1	1	S-36	
後期	英語A 34	(非)植竹 大輔	月	3	1	1	S-38	
後期	英語A 35	(非)芝田 直久	月	3	1	1	S-32	
後期	英語A 36	(非)志子田 真由子	月	3	1	1	S-31	
後期	英語A 37	(非)長谷川 明子	月	3	1	1	S-21	
後期	英語A 38	(非)ジョン・ティルマント	月	3	1	1	S-34	
後期	英語A 39	(非)ロナルド・ブレンド・スコット	月	3	1	1	S-22	
後期	英語A 40	(非)齊藤 元康	月	3	1	1	S-42	
後期	英語A 43(上級)	吉高神 明	月	3	1	1	S-11	食農学類も受講可
後期	英語A 44(基礎)	飯嶋 良太	月	3	1	1	A.V	
後期	英語A 71	佐久間 康之	火	4	1	1	S-14	食農学類
後期	英語A 72	(非)長谷川 明子	火	4	1	1	S-21	
後期	英語A 91(基礎)	佐々木 俊彦	火	4	1	1	S-35	

前期	英語 A	61	(非)植竹 大輔	木	2	1	1	S-38	食農学類
前期	英語 A	62	(非)ロナルド・ブレンド・スコット	木	2	1	1	S-22	
前期	英語 A	63	高田 英和	木	2	1	1	S-23	
前期	英語 A	01	坂本 恵	金	1	1	1	S-32	人間発達文化・共生システム理工学類
前期	英語 A	02	村上 雄一	金	1	1	1	L.L	
前期	英語 A	03	(非)九頭見 理香	金	1	1	1	S-33	
前期	英語 A	04	(非)猪井 新一	金	1	1	1	S-23	
前期	英語 A	05	(非)長谷川 明子	金	1	1	1	S-21	
前期	英語 A	06	真歩仁 しょうん	金	1	1	1	S-43	
前期	英語 A	07	マッカーズランド・フィリップ	金	1	1	1	S-38	
前期	英語 A	08	(非)ジョン・ティルマント	金	1	1	1	S-34	
前期	英語 A	09	(非)ロナルド・ブレンド・スコット	金	1	1	1	S-22	
前期	英語 A	10	佐藤 元樹	金	1	1	1	S-28	
前期	英語 A	21	川田 潤	金	3	1	1	S-14	行政政策・経済経営学類
前期	英語 A	22	照沼 かほる	金	3	1	1	S-33	
前期	英語 A	23	後藤 史子	金	3	1	1	S-31	
前期	英語 A	24	(非)齋藤 元康	金	3	1	1	S-42	
前期	英語 A	25	(非)長谷川 明子	金	3	1	1	S-21	
前期	英語 A	26	真歩仁 しょうん	金	3	1	1	S-43	
前期	英語 A	27	(非)ジョン・ティルマント	金	3	1	1	S-34	
前期	英語 A	28	(非)ロナルド・ブレンド・スコット	金	3	1	1	S-22	
前期	英語 A	29	(非)フィデルディ	金	3	1	1	S-36	
前期	英語 A	30	久我 和巳	金	3	1	1	S-35	
後期	英語 A	71	(非)植竹 大輔	木	2	1	1	S-38	食農学類
後期	英語 A	72	(非)ロナルド・ブレンド・スコット	木	2	1	1	S-22	
後期	英語 A	73	高田 英和	木	2	1	1	S-23	
後期	英語 A	11	坂本 恵	金	1	1	1	S-32	人間発達文化・共生システム理工学類
後期	英語 A	12	久我 和巳	金	1	1	1	S-35	
後期	英語 A	13	(非)九頭見 理香	金	1	1	1	S-33	
後期	英語 A	14	(非)猪井 新一	金	1	1	1	S-23	
後期	英語 A	15	(非)長谷川 明子	金	1	1	1	S-21	
後期	英語 A	16	真歩仁 しょうん	金	1	1	1	S-43	
後期	英語 A	17	マッカーズランド・フィリップ	金	1	1	1	S-38	
後期	英語 A	18	(非)ジョン・ティルマント	金	1	1	1	S-34	
後期	英語 A	19	(非)ロナルド・ブレンド・スコット	金	1	1	1	S-22	
後期	英語 A	20	佐藤 元樹	金	1	1	1	S-28	
後期	英語 A	41(上級)	川田 潤	金	1	1	1	S-14	食農学類も受講可
後期	英語 A	42(基礎)	高田 英和	金	1	1	1	S-36	食農学類も受講可
後期	英語 A	31	川田 潤	金	3	1	1	S-14	行政政策・経済経営学類
後期	英語 A	32	照沼 かほる	金	3	1	1	S-33	
後期	英語 A	33	後藤 史子	金	3	1	1	S-31	
後期	英語 A	34	(非)齋藤 元康	金	3	1	1	S-42	
後期	英語 A	35	(非)長谷川 明子	金	3	1	1	S-21	
後期	英語 A	36	真歩仁 しょうん	金	3	1	1	S-43	
後期	英語 A	37	(非)ジョン・ティルマント	金	3	1	1	S-34	
後期	英語 A	38	(非)ロナルド・ブレンド・スコット	金	3	1	1	S-22	
後期	英語 A	39	(非)フィデルディ	金	3	1	1	S-36	
後期	英語 A	40	久我 和巳	金	3	1	1	S-32	
後期	英語 A	43(上級)	佐藤 元樹	金	3	1	1	S-28	食農学類も受講可
後期	英語 A	44(基礎)	福富 靖之	金	3	1	1	S-35	食農学類も受講可

人文科学分野【「人間と文化」分野】

開講	科目	担当教員	曜日	時限	履修年次	単位	教室	備考
前期	言語・文学	井實 充史・半沢 康	月	1	1	2	遠隔	受講者数164人に制限
前期	心理学	岸 竜馬	木	1	1	2	遠隔	
前期	精神疾患とその治療	片山 規央	金	2	1	2	遠隔	
後期	哲学	(非)嶺岸 佑亮	月	1	1	2	遠隔	
後期	美術	加藤 奈保子	月	1	1	2	遠隔	受講者数164人に制限
後期	倫理学	小野原 雅夫・樋口 良之	水	2	1	2	M-24	
後期	心理学	住吉 チカ	木	1	1	2	遠隔	受講者数150人に制限
後期	ことばの仕組み	福富 靖之	木	1	1	2	遠隔	
後期	言語・文学	佐藤 佑敏・高橋 由貴・湊澤 尚	金	2	1	2	遠隔	

社会科学分野【「社会と歴史」分野】

開講	科目	担当教員	曜日	時限	履修年次	単位	教室	備考
前期	若者・学校・社会	呉 書雅	月	1	1	2	遠隔	
前期	経済学	佐藤 英司	月	1	1	2	遠隔	経済経営学類生履修不可
前期	政治学	西田 奈保子	木	1	1	2	遠隔	受講者数362人に制限
前期	ジェンダー学入門	高橋 準	金	2	1	2	遠隔	受講者数150人に制限
後期	日本国憲法 01	阪本 尚文	月	1	1	2	遠隔	行政政策学類生履修不可 / 受講者数200人に制限
後期	経営学	金 善照	月	1	1	2	遠隔	
後期	日本国憲法 02	(非)二瓶 由美子	水	2	1	2	L-4	行政政策学類生履修不可
後期	農業と人間	生源寺 真一	木	1	1	2	L-3	
後期	歴史学	阿部 浩一・菊地 芳朗・鍵和田 賢	木	1	1	2	遠隔	
後期	地理学	末吉 健治	金	2	1	2	L-1	

自然科学分野【「自然と技術」分野】

開講	科目	担当教員	曜日	時限	履修年次	単位	教室	備考
前期	食品の機能	熊谷 武久	月	1	1	2	遠隔	受講者数350人に制限
前期	食と健康	升本 早枝子	木	1	1	2	遠隔	受講者数150人に制限
前期	物質の科学	中村 和正	金	2	1	2	遠隔	
後期	マセマティカル・サイエンス	西嶋 大輔・笠井 博則	月	1	1	2	L-1	
後期	人体の構造と機能及び疾病(医学概論)	(非)小室 安宏	水	2	1	2	遠隔	
後期	環境の科学	永幡 幸司・川崎 興太・後藤 忍	水	2	1	2	L-1	
後期	情報化と経営	石岡 賢・董 彦文	木	1	1	2	遠隔	
後期	環境の科学	吉田 龍平	金	2	1	2	L-4	

ワーキングスキル【総合科目】

開講	科目	担当教員	曜日	時限	履修年次	単位	教室	備考
後期	知的財産の基礎知識	横島 善子	2	火	4	2	L-1	2年生以上
後期	データサイエンス実践演習	(非)村重 慎一郎 他	金	4	2	2	M-4	2年生以上：受講者数50人に制限

スポーツ実習【健康・運動科学実習】

開講	科目	担当教員	曜日	時限	履修年次	単位	雨天時 教室	備考
後期	卓球	(非)加藤 守匡	月	2	1	1	S-43	行政政策・経済経営学類
後期	バレーボール	(非)高橋 弘彦	月	2	1	1	S-44	
後期	バドミントン	(非)沖 和砂	月	2	1	1		
後期	ゴルフ	(非)渡部 琢也	月	3	1	1	S-41	人間発達文化学類
後期	卓球	(非)加藤 守匡	月	3	1	1		
後期	バドミントン	本嶋 良恵	月	3	1	1		
後期	ソフトボール	蓮沼 哲哉	月	3	1	1		
後期	バレーボール	(非)高橋 弘彦	月	3	1	1		
後期	タグラグビー	松本 健太	月	3	1	1		
後期	フィットネス	本嶋 良恵	金	3	1	1		
後期	卓球	(非)諏訪 雅貴	金	3	1	1	C101 C102 C103	共生システム理工・食農学類
後期	ソフトボール	竹田 隆一	金	3	1	1		

英語B・B、応用英語

LL教室、AV教室（M講義棟3階）

開講	科目	担当教員	曜日	時限	履修年次	単位	教室	備考
前期	英語B 01	朝賀 俊彦	月	1	2	1	S-23	人間発達文化・共生システム理工学類
前期	英語B 02	高木 修一	月	1	2	1	S-41	
前期	英語B 03	飯嶋 良太	月	1	2	1	A.V	
前期	英語B 04	(非)九頭見 理香	月	1	2	1	S-33	
前期	英語B 05	(非)渡邊 真由美	月	1	2	1	S-36	
前期	英語B 06	(非)芝田 直久	月	1	2	1	S-32	
前期	英語B 07	(非)志子田 真由子	月	1	2	1	S-31	
前期	英語B 08	(非)長谷川 明子	月	1	2	1	S-21	
前期	英語B 09	(非)ロナルド・ブレンド・スコット	月	1	2	1	S-22	
前期	英語B 41(上級)	(非)ジョン・ティルマント	月	1	2	1	S-34	
前期	英語B 42(基礎)	(非)齊藤 元康	月	1	2	1	S-42	食農学類も受講可
前期	英語B 61	(非)長谷川 明子	火	2	2	1	S-21	食農学類
前期	英語B 62	(非)ロナルド・ブレンド・スコット	火	2	2	1	S-22	
前期	英語B 21	川田 潤	水	1	2	1	S-14	行政政策・経済経営学類
前期	英語B 22	高木 修一	水	1	2	1	S-41	
前期	英語B 23	照沼 かほる	水	1	2	1	S-33	
前期	英語B 24	松浦 浩子	水	1	2	1	L.L	
前期	英語B 25	佐々木 俊彦	水	1	2	1	S-35	
前期	英語B 26	吉高神 明	水	1	2	1	S-11	
前期	英語B 27	(非)レジス・ドラビソン	水	1	2	1	S-12	
前期	英語B 28	(非)齊藤 元康	水	1	2	1	S-42	
前期	英語B 29	(非)ロナルド・ブレンド・スコット	水	1	2	1	S-22	
前期	英語B 43(上級)	(非)マーニ・タヴァコーリ	水	1	2	1	S-32	
前期	英語B 44(基礎)	高田 英和	水	1	2	1	S-23	食農学類も受講可
後期	英語B 11	朝賀 俊彦	月	1	2	1	S-23	人間発達文化・共生システム理工学類
後期	英語B 12	高木 修一	月	1	2	1	S-41	
後期	英語B 13	飯嶋 良太	月	1	2	1	A.V	
後期	英語B 14	(非)九頭見 理香	月	1	2	1	S-33	
後期	英語B 15	(非)渡邊 真由美	月	1	2	1	S-36	
後期	英語B 16	(非)芝田 直久	月	1	2	1	S-32	
後期	英語B 17	(非)志子田 真由子	月	1	2	1	S-31	
後期	英語B 18	(非)長谷川 明子	月	1	2	1	S-21	
後期	英語B 19	(非)ロナルド・ブレンド・スコット	月	1	2	1	S-22	
後期	英語B 51(上級)	(非)ジョン・ティルマント	月	1	2	1	S-34	
後期	英語B 52(基礎)	(非)齊藤 元康	月	1	2	1	S-42	食農学類も受講可
後期	英語B 71	(非)長谷川 明子	火	2	2	1	S-21	食農学類
後期	英語B 72	(非)ロナルド・ブレンド・スコット	火	2	2	1	S-22	
後期	英語B 31	川田 潤	水	1	2	1	S-14	行政政策・経済経営学類
後期	英語B 32	高木 修一	水	1	2	1	S-41	
後期	英語B 33	照沼 かほる	水	1	2	1	S-33	
後期	英語B 34	松浦 浩子	水	1	2	1	L.L	
後期	英語B 35	佐々木 俊彦	水	1	2	1	S-35	
後期	英語B 36	吉高神 明	水	1	2	1	S-11	
後期	英語B 37	(非)レジス・ドラビソン	水	1	2	1	S-12	
後期	英語B 38	(非)齊藤 元康	水	1	2	1	S-42	
後期	英語B 39	(非)ロナルド・ブレンド・スコット	水	1	2	1	S-22	
後期	英語B 53(上級)	(非)マーニ・タヴァコーリ	水	1	2	1	S-32	
後期	英語B 54(基礎)	高田 英和	水	1	2	1	S-23	食農学類も受講可

前期	英語 B	01	照沼 かほる	水	2	2	1	S-33	人間発達文化・共生システム理工学類
前期	英語 B	02	松浦 浩子	水	2	2	1	L.L	
前期	英語 B	03	吉高神 明	水	2	2	1	S-11	
前期	英語 B	04	(非)齊藤 元康	水	2	2	1	S-42	
前期	英語 B	05	真歩仁 しょうん	水	2	2	1	S-43	
前期	英語 B	06	(非)マーニ・タヴァコーリ	水	2	2	1	S-32	
前期	英語 B	07	(非)ジョン・ティルマント	水	2	2	1	S-34	
前期	英語 B	08	(非)ロナルド・ブレンド・スコット	水	2	2	1	S-22	
前期	英語 B	09	佐藤 元樹	水	2	2	1	S-28	
前期	英語 B	41(上級)	マッカーズランド・フィリップ	水	2	2	1	S-38	
前期	英語 B	42(基礎)	久我 和巳	水	2	2	1	S-35	食農学類も受講可
前期	英語 B	61	(非)植竹 大輔	木	4	2	1	S-38	食農学類
前期	英語 B	62	(非)ロナルド・ブレンド・スコット	木	4	2	1	S-22	
前期	英語 B	63	後藤 史子	木	4	2	1	S-31	
前期	英語 B	21	飯嶋 良太	金	2	2	1	A.V	行政政策・経済経営学類
前期	英語 B	22	村上 雄一	金	2	2	1	L.L	
前期	英語 B	23	後藤 史子	金	2	2	1	S-31	
前期	英語 B	24	(非)齊藤 元康	金	2	2	1	S-42	
前期	英語 B	25	マッカーズランド・フィリップ	金	2	2	1	S-38	
前期	英語 B	26	(非)ジョン・ティルマント	金	2	2	1	S-34	
前期	英語 B	27	(非)ロナルド・ブレンド・スコット	金	2	2	1	S-22	
前期	英語 B	28	(非)フィデルディ	金	2	2	1	S-36	
前期	英語 B	29	福富 靖之	金	2	2	1	S-35	
前期	英語 B	43(上級)	(非)猪井 新一	金	2	2	1	S-23	
前期	英語 B	44(基礎)	(非)九頭見 理香	金	2	2	1	S-33	食農学類も受講可
後期	英語 B	11	照沼 かほる	水	2	2	1	S-33	人間発達文化・共生システム理工学類
後期	英語 B	12	松浦 浩子	水	2	2	1	L.L	
後期	英語 B	13	吉高神 明	水	2	2	1	S-11	
後期	英語 B	14	(非)齊藤 元康	水	2	2	1	S-42	
後期	英語 B	15	真歩仁 しょうん	水	2	2	1	S-43	
後期	英語 B	16	(非)マーニ・タヴァコーリ	水	2	2	1	S-32	
後期	英語 B	17	(非)ジョン・ティルマント	水	2	2	1	S-34	
後期	英語 B	18	(非)ロナルド・ブレンド・スコット	水	2	2	1	S-22	
後期	英語 B	19	佐藤 元樹	水	2	2	1	S-28	
後期	英語 B	51(上級)	マッカーズランド・フィリップ	水	2	2	1	S-38	
後期	英語 B	52(基礎)	久我 和巳	水	2	2	1	S-35	食農学類も受講可
後期	英語 B	71	(非)植竹 大輔	木	4	2	1	S-38	食農学類
後期	英語 B	72	(非)ロナルド・ブレンド・スコット	木	4	2	1	S-22	
後期	英語 B	73	後藤 史子	木	4	2	1	S-31	
後期	英語 B	31	飯嶋 良太	金	2	2	1	A.V	行政政策・経済経営学類
後期	英語 B	32	村上 雄一	金	2	2	1	L.L	
後期	英語 B	33	後藤 史子	金	2	2	1	S-31	
後期	英語 B	34	(非)齊藤 元康	金	2	2	1	S-42	
後期	英語 B	35	マッカーズランド・フィリップ	金	2	2	1	S-38	
後期	英語 B	36	(非)ジョン・ティルマント	金	2	2	1	S-34	
後期	英語 B	37	(非)ロナルド・ブレンド・スコット	金	2	2	1	S-22	
後期	英語 B	38	(非)フィデルディ	金	2	2	1	S-36	
後期	英語 B	39	福富 靖之	金	2	2	1	S-35	
後期	英語 B	53(上級)	(非)猪井 新一	金	2	2	1	S-23	
後期	英語 B	54(基礎)	(非)九頭見 理香	金	2	2	1	S-33	食農学類も受講可
前期	応用英語		松浦 浩子	月	5	1	1	L.L	学類指定なし(2019年度以降入学生のみ)
前期	応用英語		佐々木 俊彦	火	5	1	1	S-35	
前期	応用英語		マッカーズランド・フィリップ	水	1	1	1	S-38	学類指定なし(2019年度以降入学生のみ)
前期	応用英語		(非)ロナルド・ブレンド・スコット	木	5	1	1	S-35	
前期	応用英語		福富 靖之	金	5	1	1	S-35	
後期	応用英語		松浦 浩子	月	5	1	1	L.L	
後期	応用英語		佐々木 俊彦	火	5	1	1	S-35	
後期	応用英語		マッカーズランド・フィリップ	水	1	1	1	S-38	
後期	応用英語		福富 靖之	木	5	1	1	S-35	
後期	応用英語		福富 靖之	金	5	1	1	S-35	

開講	科 目	担当教員	曜 日	時 限	履修年次	単 位	教 室	備 考
前期	ドイツ語基礎 A	ぐんすけふおんけるん・M	火	2	1	1	S-11	主に行政政策・経済経営学類
前期	ドイツ語基礎 B	高橋 優	火	2	1	1	S-13	
前期	ドイツ語基礎 C	高橋 優	木	2	1	1	S-13	
前期	ドイツ語基礎 D	(非)グンスケフォンケルン・J	火	3	1	1	S-12	主に人間発達文化・共生システム理工・食農学類
前期	ドイツ語基礎 E	ぐんすけふおんけるん・M	火	3	1	1	S-11	
前期	ドイツ語基礎 F	高橋 優	火	3	1	1	S-13	
前期	ドイツ語基礎 G	ぐんすけふおんけるん・M	木	4	1	1	S-11	主に人間発達文化・共生システム理工学類
前期	ドイツ語基礎(特設) A	ぐんすけふおんけるん・M	木	2	1	1	S-11	学類指定なし(2019年度以降入学生のみ)
前期	ドイツ語基礎(特設) B	(非)グンスケフォンケルン・J	木	2	1	1	S-12	
前期	ドイツ語基礎(特設) C	ぐんすけふおんけるん・M	金	2	1	1	S-11	
後期	ドイツ語基礎 A	ぐんすけふおんけるん・M	火	2	1	1	S-11	主に行政政策・経済経営学類
後期	ドイツ語基礎 B	高橋 優	火	2	1	1	S-13	
後期	ドイツ語基礎 C	高橋 優	木	2	1	1	S-13	
後期	ドイツ語基礎 D	(非)グンスケフォンケルン・J	火	3	1	1	S-12	主に人間発達文化・共生システム理工・食農学類
後期	ドイツ語基礎 E	ぐんすけふおんけるん・M	火	3	1	1	S-11	
後期	ドイツ語基礎 F	高橋 優	火	3	1	1	S-13	
後期	ドイツ語基礎 G	ぐんすけふおんけるん・M	木	4	1	1	S-11	主に人間発達文化・共生システム理工学類
後期	ドイツ語基礎(特設) A	ぐんすけふおんけるん・M	木	2	1	1	S-11	学類指定なし(2019年度以降入学生のみ)
後期	ドイツ語基礎(特設) B	(非)グンスケフォンケルン・J	木	2	1	1	S-12	
後期	ドイツ語基礎(特設) C	ぐんすけふおんけるん・M	金	2	1	1	S-11	
前期	【ドイツ語初級 B C】	高橋 優 高橋 優	火 木	2 2	1 1	2	S-13 S-13	主に行政政策・経済経営学類 (2018年度以前入学生のみ)
前期	【ドイツ語初級 F G】	高橋 優 ぐんすけふおんけるん・M	火 木	3 4	1 1	2	S-13 S-11	主に人間発達文化・共生システム理工学類 (2018年度以前入学生のみ)
後期	【ドイツ語初級 B C】	高橋 優 高橋 優	火 木	2 2	1 1	2	S-13 S-13	主に行政政策・経済経営学類 (2018年度以前入学生のみ)
後期	【ドイツ語初級 F G】	高橋 優 ぐんすけふおんけるん・M	火 木	3 4	1 1	2	S-13 S-11	主に人間発達文化・共生システム理工学類 (2018年度以前入学生のみ)
前期	ドイツ語応用 A【ドイツ語中級A】	ぐんすけふおんけるん・M	火	1	2	1	S-11	学類指定なし
前期	ドイツ語応用 B【ドイツ語中級B】	高橋 優	木	3	2	1	S-13	学類指定なし
後期	ドイツ語応用 A【ドイツ語中級C】	ぐんすけふおんけるん・M	火	1	2	1	S-11	
後期	ドイツ語応用 B【ドイツ語中級D】	高橋 優	木	3	2	1	S-13	
前期	フランス語基礎 A	(非)平手 伸昭	火	2	1	1	S-38	主に行政政策・経済経営学類
前期	フランス語基礎 B	(非)寺本 弘子	火	2	1	1	S-35	
前期	フランス語基礎 C	田村 奈保子	木	2	1	1	L.L	
前期	フランス語基礎 D	(非)平手 伸昭	火	3	1	1	S-38	主に人間発達文化・共生システム理工・食農学類
前期	フランス語基礎 E	(非)寺本 弘子	火	3	1	1	S-35	
前期	フランス語基礎 F	田村 奈保子	木	4	1	1	L.L	
前期	フランス語基礎(特設)	(非)長谷川 明子	金	2	1	1	S-21	学類指定なし(2019年度以降入学生のみ)
後期	フランス語基礎 A	(非)平手 伸昭	火	2	1	1	S-38	主に行政政策・経済経営学類
後期	フランス語基礎 B	(非)寺本 弘子	火	2	1	1	S-35	
後期	フランス語基礎 C	田村 奈保子	木	2	1	1	L.L	
後期	フランス語基礎 D	(非)平手 伸昭	火	3	1	1	S-38	主に人間発達文化・共生システム理工・食農学類
後期	フランス語基礎 E	(非)寺本 弘子	火	3	1	1	S-35	
後期	フランス語基礎 F	田村 奈保子	木	4	1	1	L.L	
後期	フランス語基礎(特設)	(非)長谷川 明子	金	2	1	1	S-21	学類指定なし(2019年度以降入学生のみ)
前期	【フランス語初級 A C】	(非)平手 伸昭 田村 奈保子	火 木	2 2	1 1	2	S-38 L.L	主に行政政策・経済経営学類 (2018年度以前入学生のみ)
前期	【フランス語初級 D F】	(非)平手 伸昭 田村 奈保子	火 木	3 4	1 1	2	S-38 L.L	主に人間発達文化・共生システム理工学類 (2018年度以前入学生のみ)
後期	【フランス語初級 A C】	(非)平手 伸昭 田村 奈保子	火 木	2 4	1 1	2	S-38 L.L	主に行政政策・経済経営学類 (2018年度以前入学生のみ)
後期	【フランス語初級 D F】	(非)平手 伸昭 田村 奈保子	火 木	3 4	1 1	2	S-38 L.L	主に人間発達文化・共生システム理工学類 (2018年度以前入学生のみ)
前期	フランス語応用 A【フランス語中級A】	(非)長谷川 明子	火	1	2	1	S-21	学類指定なし
前期	フランス語応用 B【フランス語中級B】	(非)レジス・ドラビゾン	木	3	2	1	S-12	学類指定なし
後期	フランス語応用 A【フランス語中級C】	(非)長谷川 明子	火	1	2	1	S-21	
後期	フランス語応用 B【フランス語中級D】	(非)レジス・ドラビゾン	木	3	2	1	S-12	

前期	韓国朝鮮語基礎 A	(非)金丹(きんたん)	火	2	1	1	S-14	主に行政政策・経済経営学類
前期	韓国朝鮮語基礎 B	(非)朴相賢(ばくさんひょん)	木	2	1	1	S-21	
前期	韓国朝鮮語基礎 C	(非)金丹(きんたん)	火	3	1	1	S-14	主に人間発達文化・共生システム理工・食農学類
前期	韓国朝鮮語基礎 D	(非)梁姫淑(やんひすく)	火	3	1	1	S-22	
前期	韓国朝鮮語基礎 E	(非)朴相賢(ばくさんひょん)	木	4	1	1	S-21	主に人間発達文化・共生システム理工学類
前期	韓国朝鮮語基礎(特設) A	(非)金丹(きんたん)	金	2	1	1	S-14	学類指定なし(2019年度以降入学生のみ)
前期	韓国朝鮮語基礎(特設) B	(非)梁姫淑(やんひすく)	金	2	1	1	S-12	
後期	韓国朝鮮語基礎 A	伊藤俊介	火	2	1	1	S-14	主に行政政策・経済経営学類
後期	韓国朝鮮語基礎 B	伊藤俊介	木	2	1	1	S-14	
後期	韓国朝鮮語基礎 C	伊藤俊介	火	3	1	1	S-14	主に人間発達文化・共生システム理工・食農学類
後期	韓国朝鮮語基礎 D	(非)梁姫淑(やんひすく)	火	3	1	1	S-22	
後期	韓国朝鮮語基礎 E	(非)朴相賢(ばくさんひょん)	木	4	1	1	S-21	主に人間発達文化・共生システム理工学類
後期	韓国朝鮮語基礎(特設) A	伊藤俊介	金	2	1	1	S-14	学類指定なし(2019年度以降入学生のみ)
後期	韓国朝鮮語基礎(特設) B	(非)梁姫淑(やんひすく)	金	2	1	1	S-12	
前期	【韓国朝鮮語初級 AB】	(非)金丹(きんたん)	火	2	1	2	S-14	主に行政政策・経済経営学類
		(非)朴相賢(ばくさんひょん)	木	2	1	2	S-21	(2018年度以前入学生のみ)
前期	【韓国朝鮮語初級 CE】	(非)金丹(きんたん)	火	3	1	2	S-14	主に人間発達文化・共生システム理工学類
		(非)朴相賢(ばくさんひょん)	木	4	1	2	S-21	(2018年度以前入学生のみ)
後期	【韓国朝鮮語初級 AB】	伊藤俊介	火	2	1	2	S-14	主に行政政策・経済経営学類
		伊藤俊介	木	2	1	2	S-14	(2018年度以前入学生のみ)
後期	【韓国朝鮮語初級 CE】	伊藤俊介	火	3	1	2	S-14	主に人間発達文化・共生システム理工学類
		(非)朴相賢(ばくさんひょん)	木	4	1	2	S-21	(2018年度以前入学生のみ)
前期	韓国朝鮮語応用 A【韓国朝鮮語中級A】	(非)梁姫淑(やんひすく)	火	1	2	1	S-22	学類指定なし
前期	韓国朝鮮語応用 B【韓国朝鮮語中級B】	(非)朴相賢(ばくさんひょん)	木	3	2	1	S-21	
後期	韓国朝鮮語応用 A【韓国朝鮮語中級C】	伊藤俊介	火	1	2	1	S-14	学類指定なし
後期	韓国朝鮮語応用 B【韓国朝鮮語中級D】	(非)朴相賢(ばくさんひょん)	木	3	2	1	S-21	

日本語 ~、日本事情 ~ (外国人留学生のみ)

開講	科目	担当教員	曜日	時限	履修年次	単位	教室	備考
前期	日本語 A	井本 亮	火	2	1	1	S-24	留学生(2019年度以降入学生のみ)
前期	日本語 B	井本 亮	木	2	1	1	S-24	留学生(2019年度以降入学生のみ)
前期	日本語 A	井本 亮	火	1	2	1	S-24	留学生(2019年度以降入学生のみ)
前期	日本語 B	井本 亮	木	3	2	1	S-24	留学生(2019年度以降入学生のみ)
後期	日本語 A	井本 亮	火	2	1	1	S-24	留学生(2019年度以降入学生のみ)
後期	日本語 B	井本 亮	木	2	1	1	S-24	留学生(2019年度以降入学生のみ)
後期	日本語 A	井本 亮	火	1	2	1	S-24	留学生(2019年度以降入学生のみ)
後期	日本語 B	井本 亮	木	3	2	1	S-24	留学生(2019年度以降入学生のみ)
前期	【日本語】	井本 亮	火	2	1	2	S-24	留学生(2018年度以前入学生のみ)
		井本 亮	木	2	1	2	S-24	
前期	【日本語】	井本 亮	火	1	2	2	S-24	留学生(2018年度以前入学生のみ)
		井本 亮	木	3	2	2	S-24	
後期	【日本語】	井本 亮	火	2	1	2	S-24	留学生(2018年度以前入学生のみ)
		井本 亮	木	2	1	2	S-24	
後期	【日本語】	井本 亮	火	1	2	2	S-24	留学生(2018年度以前入学生のみ)
		井本 亮	木	3	2	2	S-24	
前期	日本事情	(非)永島 恭子	木	1	1	2	S-24	留学生
後期	日本事情	(非)永島 恭子	木	1	1	2	S-24	留学生

情報リテラシー【情報処理】

101(1F演習室), 205(2F演習室)(情報基盤センター)

開講	科目	担当教員	曜日	時限	履修年次	単位	教室	備考
前期	情報リテラシー 01【情報処理 01】	松本 正晴	月	1	1	2	205(2F演習室)	
前期	情報リテラシー 02【情報処理 02】	(非)木谷 徳智	月	1	1	2	101(1F演習室)	
前期	情報リテラシー 03【情報処理 03】	(非)木谷 徳智	木	1	1	2	205(2F演習室)	
前期	情報リテラシー 04【情報処理 04】	(非)中山 祐貴	金	2	1	2	205(2F演習室)	
後期	情報リテラシー 05【情報処理 05】	松本 正晴	月	1	1	2	205(2F演習室)	
後期	情報リテラシー 06【情報処理 06】	(非)木谷 徳智	水	2	1	2	205(2F演習室)	
後期	情報リテラシー 07【情報処理 07】	寛 宗徳	木	1	1	2	205(2F演習室)	
後期	情報リテラシー 08【情報処理 08】	(非)木谷 徳智	金	2	1	2	205(2F演習室)	

問題探究科目【総合科目】

101(1F演習室)(情報基盤センター)

開講	科目	担当教員	曜日	時限	履修年次	単位	教室	備考
前期	ボランティア論	初澤 敏生	月	1	1	2	S-24	受講者数20人に制限
前期	福島ブランド農業	則藤 孝志・林 薫平	月	1	1	2	遠隔	
前期	暮らしと仕事と大学生	熊沢 透 他	月	1	1	2	L-1	
前期	社会とデータの基礎	呉 書雅・高森 智嗣・前川 直哉	月	4	1	2	L-4	
前期	都市計画と「まちづくり」	今西 一男	月	1	1	2	L-1	
前期	生活探究演習	千葉 養伍・中村 恵子・角間 陽子	木	1	1	2	S-21	受講者数24人に制限
前期	大学で学ぶ	高森 智嗣	木	1	1	2	遠隔	
前期	哲学カフェ	小野原 雅夫	金	2	1	2	S-32	受講者数50人に制限
前期	グローバル災害論	佐野 孝治	金	2	1	2	L-4	
前期	ふくしま未来学入門	前川 直哉 他	金	2	1	2	遠隔	受講者数360人に制限
後期	評価論入門	高森 智嗣	月	1	1	2	遠隔	
後期	環境放射能学入門	難波 謙二 他	水	2	1	2	M-23	
後期	災害復興支援学	山口 克彦 他	水	2	1	2	L-2	
後期	震災農村復興論	小山 良太・石井 秀樹	木	1	1	2	遠隔	
後期	データ分析入門	呉 書雅	月	1	1	2	101(1F演習室)	受講者数40人に制限
後期	地域と世界の未来をつくる科学と数学	黒沢 高秀 他	金	2	1	2	L-2	
後期	ふくしま未来学入門	前川 直哉 他	金	2	1	2	遠隔	受講者数360人に制限
後期	立ち直り支援と地域社会	高橋 有紀	金	2	1	2	L-3	
後期	むらの大学 A	千葉 偉才也・前川 直哉	金	5	1	2	S-21	(川内班)クラス分けは前期に行う。
後期	むらの大学 B	前川 直哉・千葉 偉才也	金	5	1	2	S-22	(南相馬班)クラス分けは前期に行う。
後期	むらの大学 C	前川 直哉	金	5	1	2	S-23	(大熊班)クラス分けは前期に行う。

令和4年度専門領域開講科目及び担当者一覧（令和元年度以後入学者）

= 必修， = 選必（超過単位は へ）， = 選必（超過単位は自由選択領域へ）

科目区分	要卒 単位数	科目名	履修開 始セメ スター	単位 数	経済学 コース	経営学 コース	令和4年度 担当者	令和5年度 開講予定
学類基礎科目 (リテラシー A)	14	入門マクロ経済学	1	2			井上健	開講
		入門政治経済学	1	2			三家本里実	開講
		入門経営学	1	2			野口寛樹	開講
		簿記概論	1	2			稲村健太郎	開講
		入門ミクロ経済学	2	2			佐藤英司	開講
		簿記概論	2	2			平野智久	開講
		入門統計学	3	2			井上健	開講
学類基礎科目 (リテラシー B)	14	歴史と経済	2	2			大川裕嗣	開講
		多文化理解	2	2			手代木有兒 他	開講
		基礎経営学	2	2			金善照	開講
		ミクロ経済学	3	2			荒知宏	開講
		マクロ経済学	3	2			石川大輔	開講
		世界経済論	3	2			佐野孝治	開講
		地域と経済	3	2			吉田樹	開講
		基礎経営学	3	2			尹卿烈	開講
		入門会計学	3(1)	2			奥山修司	開講
問題探究科目	2	問題探究セミナー	3	2			荒知宏	開講
			3	2			石川大輔	開講
			3	2			遠藤明子	開講
			3	2			菊池智裕	開講
			3	2			吉高神明	開講
			3	2			金善照	開講
			3	2			クスネツォーフ・マリナー	開講
			3	2			手代木有兒	開講
			3	2			沼田大輔	開講
			3	2			野際大介	開講
			3	2			福富靖之	開講
			3	2			村上早紀子	開講
			3	2			吉川宏人	開講
			3	2			井本亮	開講
コース専門科目 (コース専門科目 群) [自学類開講]	32	ミクロ経済学	4	2			佐藤英司	開講
		経済数学	4	2			佐藤寿博	開講
		マクロ経済学	4	2			石川大輔	開講
		入門金融論	4	2			(非)小島健	開講
		経済政策	4	2			熊沢透	開講
		公共経済学	4	2			沼田大輔	開講
		地域経済論	4	2			吉田樹	開講
		社会開発論	4	2			(非)森元晶文	開講
		経済学史	4	2			岩本吉弘	開講
		統計学概論	4	2			井上健	開講
		調査法（質問紙）	4	2			野際大介	開講
		経営戦略論	4	2			尹卿烈	開講
		経営組織論	4	2			野口寛樹	開講
		組織行動論	4	2			金善照	開講
		マーケティング論	4	2			遠藤明子	開講
		中級簿記	4(2)	2			貴田岡信	開講
		原価計算	4	2			下山誠	開講
		財務諸表論	4	2			平野智久	開講
		租税法概論 (東北税理士会福島支部連携講義)	4	2			稲村健太郎	開講
		国際関係論	4	2			吉高神明	開講
国際経済学	5又は6	2			荒知宏	開講		
応用経済分析	5又は6	2			佐藤寿博	開講		

= 必修, = 選必 (超過単位はへ), = 選必 (超過単位は自由選択領域へ)

科目区分	要卒 単位数	科目名	履修開 始メス ター	単位 数	経済学 コース	経営学 コース	令和4年度 担当者	令和5年度 開講予定
		国際金融論	5又は6	2			石川大輔	開講
		地域金融論(東邦銀行提供講義)	5又は6	2			石川大輔	開講
		財政学	5又は6	2			藤原一哉	開講
		地方財政論	5又は6	2			藤原一哉	開講
		環境経済学	5又は6	2			沼田大輔	開講
		社会政策	5又は6	2			熊沢透	開講
		労働経済	5又は6	2			熊沢透	開講
		産業組織と規制の経済学	5又は6	2			佐藤英司	開講
		地域政策論	5又は6	2			藤原遥	開講
		交通政策論	5又は6	2			吉田樹	開講
		日本経済論	5又は6	2			末吉健治	開講
		開発経済学	5又は6	2			(非)幕田順子	開講
		世界経済論	5又は6	2			十河利明	開講
		アメリカ経済論	5又は6	2			十河利明	開講
		欧州経済論	5又は6	2			菊池智裕	開講
		アジア経済論	5又は6	2			(非)森元晶文	開講
		社会思想史	5又は6	2			岩本吉弘	開講
		日本経済史	5又は6	2			大川裕嗣	開講
		比較経済史	5又は6	2			菊池智裕	開講
		政治経済学	5又は6	2			三家本里実	開講
		計量経済学	5	2			井上健	開講
		産業連関分析	5又は6	2			佐藤寿博	開講
		調査法(フィールド)	5又は6	2			藤原遥	開講
		人的資源管理論	5又は6	2			岩井秀樹	開講
		消費者行動論	5又は6	2			野際大介	開講
		地域企業経営論	5又は6	2			村上早紀子	開講
		国際経営論	5又は6	2			尹卿烈	開講
		財務管理論	5又は6	2			奥本英樹	開講
		現代ファイナンス論	5又は6	2			奥本英樹	開講
		経営情報分析	5又は6	2			根建晶寛	開講
		証券市場論(野村証券提供講義)	5又は6	2			奥本英樹	開講
		上級簿記	5又は6	2			奥山修司	開講
		原価計算	5又は6	2			下山誠	開講
		管理会計	5又は6	2			奥山修司	開講
		コスト・マネジメント	5又は6	2			貴田岡信	開講
		財務諸表論	5又は6	2			下山誠	開講
		財務諸表監査 (日本公認会計士協会東北会福島県会寄附講義)	5又は6	2			根建晶寛	開講
		租税法	5又は6	2			稲村健太郎	開講
		租税法	5又は6	2			稲村健太郎	開講
		国際公共政策論	5又は6	2			吉高神明	開講
		比較社会論	5又は6	2			クズネツォーワ・マリナ	開講
		言語コミュニケーション論	5又は6	2			松浦浩子	未定
		英語圏文化スタディーズ	5又は6	2			佐々木俊彦	開講
		ヨーロッパ文化スタディーズ	5又は6	2			吉川宏人	開講
		アジア文化スタディーズ	5又は6	2			手代木有兒	開講
		Analyzing Japanese : From a Comparative Perspective	3	2			福富靖之	開講
		中国語実践演習		2				
		韓国朝鮮語実践演習		2				
		英語実践演習(留学)		2				
		外国語実践演習(留学)		2				
		英語アドバンスト演習	1	1			マッカーズランド・フィリップ	開講
		英語アドバンスト演習II	2	1			マッカーズランド・フィリップ	開講

= 必修, = 選必 (超過単位はへ), = 選必 (超過単位は自由選択領域へ)

科目区分	要卒 単位数	科目名	履修開 始セメ スター	単位 数	経済学 コース	経営学 コース	令和4年度 担当者	令和5年度 開講予定	
		英語アドバンスト演習III	1	1			松浦浩子	開講	
		英語アドバンスト演習IV	2	1			松浦浩子	開講	
		英語アドバンスト演習V	1	1			佐々木俊彦	開講	
		英語アドバンスト演習VI	2	1			佐々木俊彦	開講	
		英語アドバンスト演習VII	1	1			(非)ロナルド・ブレンド・スコット	開講	
		英語アドバンスト演習VIII	2	1			福富靖之	開講	
		英語アドバンスト演習IX	1	1			福富靖之	開講	
		英語アドバンスト演習	2	1			福富靖之	開講	
		英語アドバンスト演習 I	1	1			マッカーズランド・フィリップ	開講	
		英語アドバンスト演習	2	1			マッカーズランド・フィリップ	開講	
		ドイツ語アドバンスト演習	1	1			未定	開講	
		ドイツ語アドバンスト演習	2	1			未定	開講	
		フランス語アドバンスト演習	1	1			未定	開講	
		フランス語アドバンスト演習	2	1			未定	開講	
		中国語アドバンスト演習	1	1			未定	開講	
		中国語アドバンスト演習	2	1			未定	開講	
		ロシア語アドバンスト演習	1	1			クズネツォワ・マリーナ	開講	
		ロシア語アドバンスト演習	2	1			吉川宏人	開講	
		韓国朝鮮語アドバンスト演習	1	1			未定	開講	
		韓国朝鮮語アドバンスト演習	2	1			伊藤俊介	開講	
		ドイツ語アドバンスト演習	3	1			未定	開講	
		ドイツ語アドバンスト演習	4	1			未定	開講	
		ドイツ語アドバンスト演習	3	1			未定	開講	
		ドイツ語アドバンスト演習	4	1			未定	開講	
		フランス語アドバンスト演習	3	1			未定	開講	
		フランス語アドバンスト演習	4	1			未定	開講	
		フランス語アドバンスト演習	3	1			未定	開講	
		フランス語アドバンスト演習	4	1			未定	開講	
		中国語アドバンスト演習	3	1			未定	開講	
		中国語アドバンスト演習	4	1			未定	開講	
		中国語アドバンスト演習	3	1			未定	開講	
		中国語アドバンスト演習	4	1			未定	開講	
		ロシア語アドバンスト演習	3	1			吉川宏人	開講	
		ロシア語アドバンスト演習	4	1			吉川宏人	開講	
		ロシア語アドバンスト演習	3	1			クズネツォワ・マリーナ	開講	
		ロシア語アドバンスト演習	4	1			(非)ガ'ツェワ・ラダ	開講	
		韓国朝鮮語アドバンスト演習	3	1			(非)梁姫淑	開講	
		韓国朝鮮語アドバンスト演習	4	1			伊藤俊介	開講	
		韓国朝鮮語アドバンスト演習	3	1			(非)朴相賢	開講	
		韓国朝鮮語アドバンスト演習	4	1			(非)朴相賢	開講	
	コース専門科目		民法総則 [行]	3又は4	2			中里真	開講
			民法(不法行為) [行]	3又は4	2			中里真	開講
			民法(債権総論) [行]	5又は6	2			山崎暁彦	開講
		民法(債権各論) [行]	5又は6	2			山崎暁彦	開講	
		労働法 [行]	5又は6	2			長谷川珠子	開講	
		労働法 [行]	5又は6	2			長谷川珠子	開講	
		社会保障法 [行]	5又は6	2			欠講	開講	
		社会構造論 [行]	5又は6	2			欠講	欠講	
		商法 [行]	5又は6	2			福島雄一	開講	
		商法 [行]	5又は6	2			福島雄一	開講	
		経済法 [行]	5又は6	2			欠講	欠講	
		国際法 [行]	5又は6	2			鈴木めぐみ	開講	

= 必修, = 選必 (超過単位は へ), = 選必 (超過単位は自由選択領域へ)

科目区分	要卒 単位数	科目名	履修開 始セメ スター	単位 数	経済学 コース	経営学 コース	令和4年度 担当者	令和5年度 開講予定
(コース専門科目 群) [他学類開講]		国際法 [行]	5又は6	2			鈴木めぐみ	開講
		公共政策論 [行]	5又は6	2			欠講	未定
		地域社会学 [行]	5又は6	2			板倉有紀	開講
		エコロジカル経済学 [理]	5	2			西嶋大輔	開講
		経営工学 [理]	3	2			石川友保	開講
		応用数学 [理]	6	2			中山明	開講
		サプライチェーンマネジメント [理]	4	2			石川友保	開講
		応用数学 [理]	5	2			中山明	開講
		生産管理概論 [理]	3	2			寛宗徳	開講
		流通管理概論 [理]	3	2			石川友保	開講
		経営情報システム [理]	5	2			董彦文	開講
		協同組合学 [食]	5又は6	2			小山良太	開講
		農林資源経済論 [食]	5又は6	2			林薫平	開講
	フードシステム論 [食]	5又は6	2			則藤孝志	開講	
コース専門科目 (専門演習)		専門演習	4~6	2			専門演習一覧参照	開講
コース専門科目 (AL科目)	6	卒研のための統計分析	6	2			野際大介・佐藤英司	開講
		コーオプ演習：アクセンチュア	4~6	2			遠藤明子	開講
		コーオプ演習：地域デザイン	5	2			岩井秀樹	開講
		コーオプ演習：地域デザイン	6	2			岩井秀樹	開講
		海外調査：アジア	5	2			佐野孝治	開講
		海外調査：アジア	6	2			佐野孝治	開講
		海外調査：欧米	5	2			菊池智裕	開講
		海外調査：欧米	6	2			菊池智裕	開講
		Japan Study Program (JSP)	3	2			マッカーズランド・フィリップ	開講
		Japan Study Program (JSP)	4	2			マッカーズランド・フィリップ	開講
		Japan Study Program (JSP)	3	2			マクマイケル・ウィリアム	開講
		Japan Study Program (JSP)	3	2			マクマイケル・ウィリアム	開講
		Work Experience Abroad (WEA)	3	2			マッカーズランド・フィリップ	開講
		Work Experience Abroad (WEA)	4	2			マッカーズランド・フィリップ	開講
		特別演習 外書講読 (英語)	4	2			遠藤明子	開講
		ドイツ語実践演習	4	2			グンスケフォンケルン・M	開講
		ロシア語実践演習	4	2			クズネツォワ・マリーナ	開講
ドイツ語実践演習	5	2			グンスケフォンケルン・M	開講		
ロシア語実践演習	5	2			クズネツォワ・マリーナ	開講		
コース専門科目 (卒業研究演習)		卒業研究演習	7	2			指導教員一覧参照	開講
コース専門科目 (卒業研究演習)	2	卒業研究演習	8	2			指導教員一覧参照	開講
卒業研究	4	卒業研究	8	4			指導教員一覧参照	開講
コース専門科目 (特殊講義)		英語技能検定試験対策講座	1	2			非常勤	開講
		英語技能検定試験対策講座	1	2			非常勤	開講
		ビジネス法務	4	2			平野智久	開講
		アドバンスト科目	5	2				
		海外語学研修 (英語) ほか学修案内「自由選択」の項参照	1	2~4			-	-
		Interpretation Exercises [国]	3	2			マクマイケル・ウィリアム	未定
		Fukushima's History and Culture [国]	3	2			マクマイケル・ウィリアム	未定
		Fukushima's History and Culture [国]	3	2			マクマイケル・ウィリアム	未定
	国際共修(Intercultural Co-Learning) [国]	3	1			マクマイケル・ウィリアム	未定	

= 必修, = 選必 (超過単位はへ), = 選必 (超過単位は自由選択領域へ)

科目区分	要卒 単位数	科目名	履修開 始セメ スター	単位 数	経済学 コース	経営学 コース	令和4年度 担当者	令和5年度 開講予定
		国際共修(Intercultural Co-Learning) 【国】	3	1			マクマイケル・ウィリアム	未定
		Understanding Post-Disaster Fukushima 【国】	3	2			マクマイケル・ウィリアム	未定

備考

- ・ のついた科目は会計エキスパート・プログラムの飛びセメスター対象科目です。
- ・ 「問題探究セミナーII」は1科目2単位を必ず履修する必要があります。井本亮クラスは留学生のみ選択できます。
- ・ 「ドイツ(ロシア)語実践演習」には受講条件があります。
「ドイツ語実践演習」は「ドイツ語基礎」2単位の修得を受講の条件とします。
「ドイツ語実践演習」「ロシア語実践演習」では、対応する「演習」の修得がそれぞれ受講の条件となります。
- ・ 英語アドバンスト演習は同一曜日、同一時限の応用英語を修得済みの場合、同じ科目としてみなされるため、再修得できません。
- ・ 「英語以外の外国語アドバンスト演習」の受講を希望する場合は、必ず履修登録前に教務課に相談ください。
基盤教育の外国語科目の単位には計上できません。
後期開講は前期とのセット履修です。基盤教育の外国語基礎(特設)や外国語応用とのセットはできません。
- ・ 【行】は行政政策学類開設科目、【理】は共生システム理工学類開設科目、【食】は食農学類開設科目を示します。
- ・ 【国】の国際交流センター拠出科目は、基本的に単年度開講です。
- ・ 令和4年度から、履修基準表に合わせて科目区分の名称等を変更しています。

専門領域の履修について

専門領域

学類基礎科目

経済経営学類では、経済・経営分野における基礎的素養を「経済経営リテラシー」と呼んでおり、学類基礎科目は、経済経営リテラシーA科目、経済経営リテラシーB科目からなります。第1セメスターから第3セメスターにかけて履修する科目群で、主に第4セメスター以降に履修するコース専門科目の基礎として必修性が高いものですので、各々の標準履修セメスターにおいて、とりこぼしのないように修得しましょう。

「経済経営リテラシーA」

経済経営リテラシーAは、入学当初の第1セメスターから第3セメスターにかけて開講される以下の7つの科目です。要卒単位数は14単位で、7科目すべてが必修科目です。

(第1セメスター開講)「入門マクロ経済学」・「入門政治経済学」・「入門経営学」・「簿記概論」

(第2セメスター開講)「入門ミクロ経済学」・「簿記概論」

(第3セメスター開講)「入門統計学」

なお日本商工会議所(日商)簿記検定3級または全国商業高等学校協会(全商)簿記実務検定試験1級を取得した学生に対しては、「簿記概論」と「簿記概論」をすでに修得したものと単位を認定する制度があります。単位認定を希望する学生は、所定の期間に、教務担当窓口で申請してください。詳しくは、「簿記概論」の1回目の授業で説明します。またこの単位認定制度は他学類生であっても適用されますが、例外もあるので注意してください。

「経済経営リテラシーB」

経済経営リテラシーBは、第2セメスターと第3セメスターで開講される以下の科目群です。要卒単位数は、9科目中の7科目を習得しての14単位です。

(第2セメスター開講)「歴史と経済」・「多文化理解」・「基礎経営学」

(第3セメスター開講)「ミクロ経済学」・「マクロ経済学」・「世界経済論」・「地域と経済」・

「基礎経営学」・「入門会計学」

14単位を超えて修得した単位は、コース専門科目の単位として計上することができます。

問題探究科目

「問題探究セミナー」

この科目は、語学力を含め、専門領域での学修に必要な力を身に着けることを目的とし、第 3 セメスターで演習形式によって行われる必修科目です。履修受付は、他の専門科目とは別に第 2 セメスターの 12 月頃に行います。掲示でお知らせしますので、注意してください。

なお留学生は「選必」です。選択必修（要卒 2 単位）で、超過した単位はコース専門科目として計上できます。（「外国人留学生履修基準表」参照）

要卒 単位数	科目名	令和 4 年度 担当者
2	問題探究セミナー	荒知宏
		石川大輔
		遠藤明子
		菊池智裕
		吉高神明
		金善照
		クズネツォーワ・マリーナ
		手代木有兒
		沼田大輔
		野際大介
		福富靖之
		村上早紀子
		吉川宏人
井本亮		

「コース科目群」

「コース専門科目群」

コース専門科目は、各コースにおける専門的分野を系統的に学修するように組み立てられており、「開講科目一覧表」にコースごとに 印で指定されています。

第 1 セメスターから履修できる外国語の「アドバンスト演習」を含み、第 4 セメスター開講の基幹的科目と第 5 セメスター以降開講の中級・応用的科目が主要な科目です。

要卒単位数として、32 単位の修得が必要ですので、各コースの履修モデルを参考に、計画的に履修してください。なお 32 単位を超えて修得した単位は、自由選択の単位として計上することができます。

「専門演習」

経済経営学類は、演習形式による少人数教育を重視しています。その代表的な授業科目が「専門演習」であり、ゼミナール（ゼミ）とも呼ばれます。第 4 セメスターから開講され、担当教員の指導の下に、第 6 セメスターまでより深く専門領域を研究し、第 7・8 セメスターの卒業研究演習へとつなげていくものです。

1 セメスター当たり 2 単位、合計 6 単位まで修得することができます。

「専門演習」の所属決定は、まず第 3 セメスターの 4 月中旬頃に「コース所属及び専門演習説明会」と「専門演習募集要項」の発表を行います。その後の一定期間を所属する専門演習の選択期間としますので、専門演習所属を希望する者は、その期間に希望するゼミのゼミ訪問などを行って所属したい専門演習を選択し、所定の期日までに「LiveCampus（ライブキャンパス）」で手続きすることとなります。掲示などでの案内に注意してください。

所属は担当教員の選考を経て第 3 セメスター中に決定されます。所属決定後は、卒業研究提出まで、原則として同一教員の指導を受けることになります。

なお「専門演習」に関わる要卒単位数は、後述の「AL 科目群」と「卒業研究演習」を合わせた 6 単位と設定されています。4～6 セメ連続で「専門演習」を受講すれば要卒単位数を満たすことができますが、第 1 セメスターから「AL 科目群」の学修を積み上げて、「専門演習」を受講せずに「卒業研究演習」へつなげる選択肢もあります。

なお「専門演習」・「AL 科目群」・「卒業研究演習」の 3 つの科目群をあわせて 6 単位を超えて修得した単位は、コース専門科目もしくは自由選択の単位として計上することができます。

また第 5 セメスター以降に「専門演習」の履修を希望する場合は、事前に担当教員の内諾を得た上で、当該セメスターの所定の期間に、「専門演習」所属の手続きをとる必要があります。

「専門演習」の所属を第 5 セメスター以降に変更したい場合は、事前に、所属する「専門演習」の担当教員に相談し、また、新たに所属を希望する「専門演習」の担当教員の内諾を得た上で、当該セメスターの所定の期間に、「専門演習」所属変更の手続きをとる必要があります。

「AL 科目群」

（卒研のための統計分析、コーオブ演習、海外調査、Work Experience Abroad I・、Japan Study Program・、IV、ドイツ語実践演習・、ロシア語実践演習・、特別演習）

「AL 科目群」とはアクティブ・ラーニングを取り入れた科目群です。各々、多様な内容、多様な形態で開講されます。具体的な授業内容と方法については各々のシラバスを参照してください。

「卒業研究演習」

「卒業研究演習」は、卒業研究を作成するために第 7・8 セメスターに開講される演習です。第 6 セメスター経過時に、「卒業研究提出資格要件」を満たした者に限り、履修することができます。通年指導を基本とし、第 6 セメスターまで「専門演習」に所属する学生は、通常、同一の指導教員の「卒業研究演習」を履修することになります。「専門演習」に所属しない学生は、履修登録前に、担当教員の内諾を得た上で、「所定の期日」までに「卒業研究演習所属届」を提出しなければいけません。

なおどちらの場合でも、第 7 セメスターの「卒業研究演習」（2 単位）は、「AL 科目群」とあわせて 6 単位が要卒単

位なので必ずしも必修科目とはなりません、第 8 セメスターの「卒業研究演習」は必修科目となります。

「卒業研究演習」の履修登録は、「卒業研究演習担当教員一覧」を参照し行ってください。

なお「専門演習」・「AL 科目群」・「卒業研究演習」を合わせて 6 単位を超えて修得した単位は、コース専門科目もしくは自由選択の単位の計上することができます。

卒業研究

「卒業研究」は、大学 4 年間の学修・研究の集大成となるべき必修科目です。専門分野により、作成の手法はさまざまですが、自らテーマを設定し、研究計画を立て、自らの手で能動的に、新たな知見を得ることが目標となります。

「卒業研究」は、複数名で作成した共同研究の成果として提出することもできます。この場合は、研究計画・研究分担・研究実施経過等を明らかにしなければなりません。

「卒業研究」の履修登録は、「卒業研究指導教員一覧」を参照し行ってください。

重要！卒業研究提出までに必要な手続き

以下の[所定の期日]までに完了しなければならない諸手続きについては、掲示・LiveCampus で手続き期間をお知らせします。重要な手続きです。見落としの無いように、十分に注意してください。

1. 「卒業研究演習履修要件」・「卒業研究提出要件」

「卒業研究演習（第 7 セメスター）」、「卒業研究演習（第 8 セメスター・必修）」、および「卒業研究（第 8 セメスター・必修）」を履修登録するには、第 6 セメスター終了までに卒業要件単位 80 単位以上修得していなければなりません。その上で、第 7 セメスター開始時に卒業研究指導教員を決定し、卒業研究に取り組むことになります。

2. 「卒業研究演習」の履修登録

「卒業研究演習」に所属する、あるいは、所属しないにかかわらず、第 7 セメスター開始時に、卒業研究演習指導教員を確定しなければいけません。「専門演習」に所属していなかった場合、および、「専門演習」と「卒業研究演習」の指導教員が異なる場合は、新たな指導教員の内諾を得た上で、「所定の期日」までに「卒業研究演習所属届」を提出しなければいけません。

「卒業研究演習」を履修する場合は第 7 セメスターの履修登録時に履修登録をしてください。（便宜上、LiveCampus では水曜 5、6 限に設定してあります）

「卒業研究演習」は第 8 セメスターの履修登録時に必ず登録をしてください。（便宜上、LiveCampus では水曜 5、6 限に設定してあります）

「卒業研究演習」を修得済の学生が、卒業研究を提出する時は、卒業研究を提出するセメスターの「所定の期日」までに、卒業研究指導教員の「卒業研究指導承諾書」を提出しなければいけません。

3. 「卒業研究」の履修登録

第8セメスターの履修登録時に、「卒業研究」の履修登録を行ってください。

「卒業研究（4単位）」はCap 2 4単位に含まれます。

4. 卒業研究の提出

第8セメスターの「所定の期日」までに指定の様式で、教務課経済経営学類係に提出しなければなりません。

提出時間が守れなかった場合、いかなる理由があろうと、一切受理しません。

卒業研究指導教員に直接提出した場合は無効になります。

5. 第6セメスター終了までに卒業研究提出要件の80単位を修得できなかった場合、80単位を修得した翌々セメスター以降に1～4と同様の手続きをとることになります。

卒業研究提出様式

ア 卒業研究は原則として次の形式に従って作成・提出すること。

- (1) 手書きの場合は、黒または青のインク又はボールペンを用いる。
- (2) 用紙はA4判もしくはB5判の400字詰原稿用紙（縦書き・横書き）を用いる。
パソコンを使用する場合は同じ大きさの罫線のない用紙（片面のみ）を用い、横書きで作成してよい。
ただし、上記本文の書式については、指導教員の承諾を得れば、この限りではない。

イ 卒業研究の体裁

卒業研究題目

指導教員名

学籍番号

氏名

を記載した表紙を用いて綴じて、提出すること。

盗作・盗用の禁止についての注意喚起

物理媒体の出版物や電子媒体上の情報（インターネット上の情報を含む）など、既存の著作物から文字列、図表、図案等を引用する場合には、引用箇所を必ず明示し、その出典を明記すること。

引用箇所と出典を明示しない引用は盗作・盗用にあたるので、それが判明した場合は指導教員の判断によって成績評価に大きな影響が及ぶことがある。

卒業研究演習・卒業研究提出指導教員一覧

「卒業研究演習」は、卒業要件単位80単位を修得した次のセメスターに、

「卒業研究演習」は卒業研究を提出するセメスターに、履修登録を行ってください。

「卒業研究」は卒業研究を提出するセメスターに、履修登録を行ってください。

「卒業研究演習」の開講曜日・時限は、必ず担当教員に確認の上、履修登録・受講をしてください。

荒 知宏	奥山 修司	佐野 孝治	藤原 一哉
石川 大輔	菊池 智裕	下山 誠	藤原 遥
伊藤 俊介(注) (後期)	貴田岡 信	末吉 健治	フィリップ・マッカーズランド(注)
稲村 健太郎	吉高神 明(注)	十河 利明	三家本 里実
井上 健	クズネットワーク・マリナー(注)	手代木 有兒(注)	村上 早紀子
井本 亮(注)	金 善照	沼田 大輔	尹 卿烈
岩井 秀樹(注)	熊沢 透	根建 晶寛	吉川 宏人(注)
岩本 吉弘	グンスケフォンケルン・マルティ ーナ(注)	野際 大介	吉田 樹
遠藤 明子	佐々木 俊彦(注)	野口 寛樹	
大川 裕嗣	佐藤 英司	平野 智久	
奥本 英樹	佐藤 寿博	福富 靖之(注)	

(注)：受講を希望する場合は、必ず履修登録前に教務課に相談ください。

エキスパート・プログラムの所属、認定手続き

グローバル・エキスパート・プログラム

グローバル・エキスパート・プログラムとは

「グローバル・エキスパート・プログラム」は、異なる文化的背景を持つ人々の中で他者に共感しつつ、自らの周りの諸課題を地球規模で考える人材育成を目的とするプログラムです。プログラムの趣旨については「経済経営学類の教育内容」を参照してください。

グローバル・エキスパート・プログラム所属、認定手続きについて

(1) 所属手続きについて

募集時期：第1セメスター（7月下旬）第2セメスター以降に応募する場合は、教務課の経済経営学類係にご相談ください。

所属学生選考方法：所定の申請用紙の記載内容に基づいて決定します。

(2) 認定手続きについて

グローバル・エキスパート・プログラムに所属し、認定要件を満たした時点で、所定の申請用紙に必要事項を記入し、教務課の経済経営学類係に提出してください。

グローバル・エキスパート・プログラム認定要件

区分	科目名	単位数	認定要件
基盤教育	接続領域・外国語コミュニケーション科目 (英語・英語以外の外国語) 教養領域・外国語科目(英語・英語以外の外国語)	各1単位	12単位
	アドバンスト演習科目(英語・英語以外の外国語) 英語技能検定試験対策講座		
専門科目	グローバル演習 海外調査(アジア)II、海外調査(欧米)II、WEA II ドイツ語実践演習 II、ロシア語実践演習 II* 中国語実践演習、韓国朝鮮語実践演習 その他の海外語学研修**	1~2単位	2単位

	外部技能審査*** (入学時の TOEIC は除く)		
	リテラシー科目・多文化理解	2 単位	2 単位
	他のグローバル EP 科目 海外調査 (アジア) 、海外調査 (欧米) 、WEA 、ドイツ語実践演習 、ロシア語実践演習 、JSP 、JSP 、JSP 、JSP IV、世界経済論 、国際関係論、社会開発論、開発経済学、世界経済論 、アメリカ経済論、欧州経済論、アジア経済論、国際公共政策論、比較社会論、国際経営論、言語コミュニケーション論、英語圏文化スタディーズ、ヨーロッパ文化スタディーズ、アジア文化スタディーズ、Analyzing Japanese	1 ~ 2 単位	8 単位
	・上記のうち、余剰に修得した科目 ・国際交流センター開講科目 (自由選択科目)		6 単位
総計			30 単位

グローバル・エキスパート・プログラム認定科目についての留意事項

* ロシア語実践演習 を認定要件とするには、授業終了後の海外研修参加が条件となります。

** その他の海外語学研修を認定要件とするに際しては、認定の可否、認定方法、および単位数、手続きを現行の「英語の語学研修に係る学修の単位認定に関する要項」「英語以外の外国語の語学研修に係る学修の単位認定に関する要項」に拠ります。この際、基盤教育科目としての単位認定との二重読みはできません。

*** 外部技能審査を認定要件とするにあたっては、認定の対象となる技能審査の種類、級もしくはスコア、および単位数、手続きは現行の「英語に係る技能審査の単位認定に関する要項」「英語以外の外国語に係る技能審査の単位認定に関する要項」に拠ります。この際、基盤教育科目としての単位認定との二重読みはできません。

【望ましい履修パターン：英語中心】

1 セメスター	2 セメスター
---------	---------

英語 4 科目、非英 1 科目	英語 4 科目、非英 1 科目 多文化理解
3 セメスター	4 セメスター
英語 2 科目、国際関係論、世界経済論、Analyzing Japanese、WEA、WEA もしくは JSP ~ IV のうち 2 科目	
5 セメスター以降	
社会開発論、開発経済学、世界経済論、アメリカ経済論、欧州経済論、アジア経済論、国際公共政策論、比較社会論、国際経営論、言語コミュニケーション論、英語圏文化スタディーズ、ヨーロッパ文化スタディーズ、アジア文化スタディーズ	

【望ましい履修パターン：非英中心】

1 セメスター	2 セメスター
英語 3 科目、非英 1 もしくは 2 科目	英語 3 科目、非英 1 もしくは 2 科目 多文化理解
3 セメスター	4 セメスター
非英 2 もしくは 4 科目、国際関係論、世界経済論、ドイツ語実践演習、ロシア語実践演習、中国語実践演習、韓国朝鮮語実践演習	
5 セメスター以降	
海外調査（アジア）、海外調査（欧米）、社会開発論、開発経済学、世界経済論、アメリカ経済論、欧州経済論、アジア経済論、国際公共政策論、比較社会論、国際経営論、言語コミュニケーション論、英語圏文化スタディーズ、ヨーロッパ文化スタディーズ、アジア文化スタディーズ	

(注) 上記はあくまでも望ましい履修パターンで、パターンどおりの履修を強制するものではありません。

自由選択

自由選択の卒業要件単位は 16 単位です。他の領域において要卒単位数を超えて修得した単位は自由選択に計上されます。また次の科目は自由選択の単位としてのみ計上されます。

所属コース以外の「コース専門科目」、「特殊講義」、「大学院科目」、他学類の「開放科目」、国際交流センター開講科目、他大学または短期大学の授業科目、単位認定される語学研修、単位認定される技能審査

所属コース以外の「コース専門科目」

「開講科目一覧」の「コース専門科目」で、経済学コースと経営学コースのどちらか一方だけに が付いている科目は、そのコースの所属生ではない場合は自由選択の単位として計上されます。

「特殊講義」

経済経営学類生のみが受講可能であり、コースにかかわらず自由選択科目として計上される科目です。（「ビジネス法務」「英語技能試験対策講座」など）

「大学院科目」

大学院で開講する「特殊研究」などの科目について、履修は第 5 セメスター以降で、計 4 単位まで自由選択の要卒単位数に認定します（なお修得単位の上限はありませんが、Cap の対象になります）。履修方法等は、学類掲示板にて周知しますので、掲示に注意してください。

他学類の「開放科目」

専門領域科目のうち他学類生の受講が認められている科目を「開放科目」といいます。「開放科目」は、自由選択の単位として計上することができ、他大学等で修得した単位とあわせて最大で 60 単位まで修得することができます。

他学類の開放科目は、2 年次生以上で、かつ当該科目の履修セメスター以上の学生に限り履修することができます。

「他学類専門科目等の履修について」と「開放科目一覧」を参照してください。

開放科目を履修する場合には、受講したい科目が開放科目であること、及び その履修セメスターを確認した上で、LiveCampus より登録を行う必要があります。開講する曜日・時限等については、各学類の時間割表や LiveCampus の授業時間割を参照してください。また、開放科目であっても、受講者数等の事情により受講者制限を行うことがあるので、注意してください。

国際交流センター開講科目

これらの授業は交換留学生向けに提供されている科目です。日本人学生も受講することは可能ですが、講義及び試

験は全て英語で行われます。受講する為に求められる英語力の詳細については、各科目のシラバスを参照ください。

他大学または短期大学の授業科目

「他大学及び大学以外の教育施設における学修の単位認定について」及び「大学間交流協定に基づく学生派遣について」を参照してください。

単位認定される語学研修

「英語の語学研修に係る学修の単位認定に関する要項」を参照してください。

単位認定される技能審査

「簿記に係る技能審査の単位認定に関する要項」及び「英語に係る技能審査の単位認定に関する要項」を参照してください。

その他

アドバイザー教員制度について

学生のみなさんは、履修登録した授業科目を、原則として責任をもって最後まで受講しなければなりません。そのためには、何よりもしっかりした履修計画を立てることが必要になります。履修計画を立てるには、まず「学修案内」や「シラバス」を熟読することが必要です。

その上で、セメスターごとの履修登録にあたっては、登録しようとしている授業科目が自分の学修目標に適合しているか、系統的な学修が保たれているか、学修量の点から無理な計画になっていないか、など、アドバイザー教員とよく相談してください。

経済経営学類では、以下のように自分の所属する演習科目の担当教員がアドバイザー教員となります。

第1セメスター：「スタートアップセミナー」担当教員

第2セメスター：「問題探究セミナー」担当教員

第3セメスター：「問題探究セミナー」担当教員

第4セメスターから第6セメスター：「専門演習」担当教員

第7セメスターから第8セメスター：「卒業研究演習」担当教員

専門演習に所属しない学生については、4セメ開始までに教務委員会で学生の希望を考慮して担当者を割当て、アドバイザー教員を決定します。

「卒業研究演習」を受講しない学生の担当者は、原則として直前の専門演習担当者がアドバイザー教員となります。アドバイザー教員は、学修ばかりでなく、大学生活一般のアドバイザーでもあります。質問、相談事があれば研究室のドアをノックしてください。

早期警告措置について

経済経営学類では学生が計画的に学修を進め卒業要件を確実に満たすことができるよう促すために、成績不良の学生に対して以下のような早期警告措置を行います。

- ・ 第2セメスターの成績交付時点で、修得卒業要件単位が20単位未満の学生に関しては、アドバイザー教員に修学状況を通知します。
- ・ 第4セメスターの成績交付時点で、修得卒業要件単位が40単位未満の学生に対しては、アドバイザー教員が履修指導を行います。
- ・ さらに第6セメスターの成績交付時点で、修得卒業要件単位が80単位未満の学生に対しては、履修指導を行います。

- ・ 上記の他、直前のセメスターの修得単位が 10 単位未満等の学生に対して、必要に応じて教務委員、アドバイザー教員が個別の指導（保護者への成績表郵送を含む）を行います。

転コースについて

正当な理由がある場合は、第 4 セメスターの間に、第 5 セメスターからのコース所属変更を申請することができます。手続きについては教務課に問い合わせてください。

転学類について

入学後、ようやく自分の将来像が定まり、そのために本学の他学類で勉強したい、という希望をもつ人があるかもしれません。そのような人のために、転学類制度があります。転学類は、第 3 セメスターの所定の期間に申請を受けつけ、選考を行います。認められた学生は第 4 セメスターから新しい学類に所属することになります。

ただし、転学類は、学生本人の希望どおりに認められるものではなく、各学類が転入の出願要件や選考方法を定めていますので、教務課の該当学類窓口にて確認してください。

授業以外の時間帯における演習室の使用について

サブゼミ及びゼミ活動は、原則として割り振られた演習室で行うこと。

使用時間（午前 9 時～午後 10 時 30 分）以外は絶対に使用しないこと。

割り振られたゼミ間で十分に話し合いの上使用すること。

室内を加工するなど、現状を変更してはならない。室内備品等を他教室へ移動しないこと。

常に火災等の事故が起こらないように特に注意すること。

整理整頓に努め、使用後は必ず清掃を行うこと。

退出時に使用機器類の電源を切り、窓を施錠すること。

大学間交流協定に基づく留学後の単位認定について

大学間交流協定に基づく留学後の単位認定について

留学後には留学先の大学で取得した単位を、福島大学の科目として認定することができます。認定の詳細については下記のとおりです。

(1) 留学時における英語及び英語以外の外国語関連の学修については、表A又は表Bにより学修時間に応じて22単位まで専門科目として認定する。なお本学で開講する英語及び英語以外の外国語又は本学で開講していない外国語から複数の外国語を学修した場合も、認定単位は22単位までとする。

(2) 留学時における外国語関連以外の学修のうち授業内容が外国語関連以外の専門科目に相当するものがあれば、学修時間に応じて認定する。

(3) 留学中の学修で基盤教育科目(英語B、応用英語、英語以外の外国語応用 など)として認定できるものがあれば、学修時間に応じて認定する。

(4) 認定にあたっては、留学先各科目のシラバスが必要になります。帰国後に用意できないケースも多いので、必ず留学中に準備しておくようにしてください。準備ができない場合、希望の科目で認定できないことがあります

(5) 不明な点があれば、事前に教務課で確認してください。

表A：留学時における英語の学修について単位認定できる科目

科目名	単位	認定	科目区分
Japan Study Program 科目群	2	4	専門科目
英語実践演習(留学)	2	18	専門科目
合計		22	

表B：留学時における英語以外の外国語の学修について単位認定できる科目

科目名	単位	認定	科目区分
ドイツ語実践演習、ロシア語実践演習	2	4	専門科目
外国語実践演習(留学)	2	18又22	専門科目
合計		22	

英語実践演習(留学)、外国語実践演習(留学)は、留学時単位認定用の科目とし、英語は18単位まで、ドイツ語、ロシア語は18単位まで、フランス語、中国語、韓国朝鮮語は、22単位まで認定するものとする。また本学で開講していない外国語の学修については、外国語実践演習(留学)として学修時間に応じて22単位まで認定する。

教育職員免許状の取得について

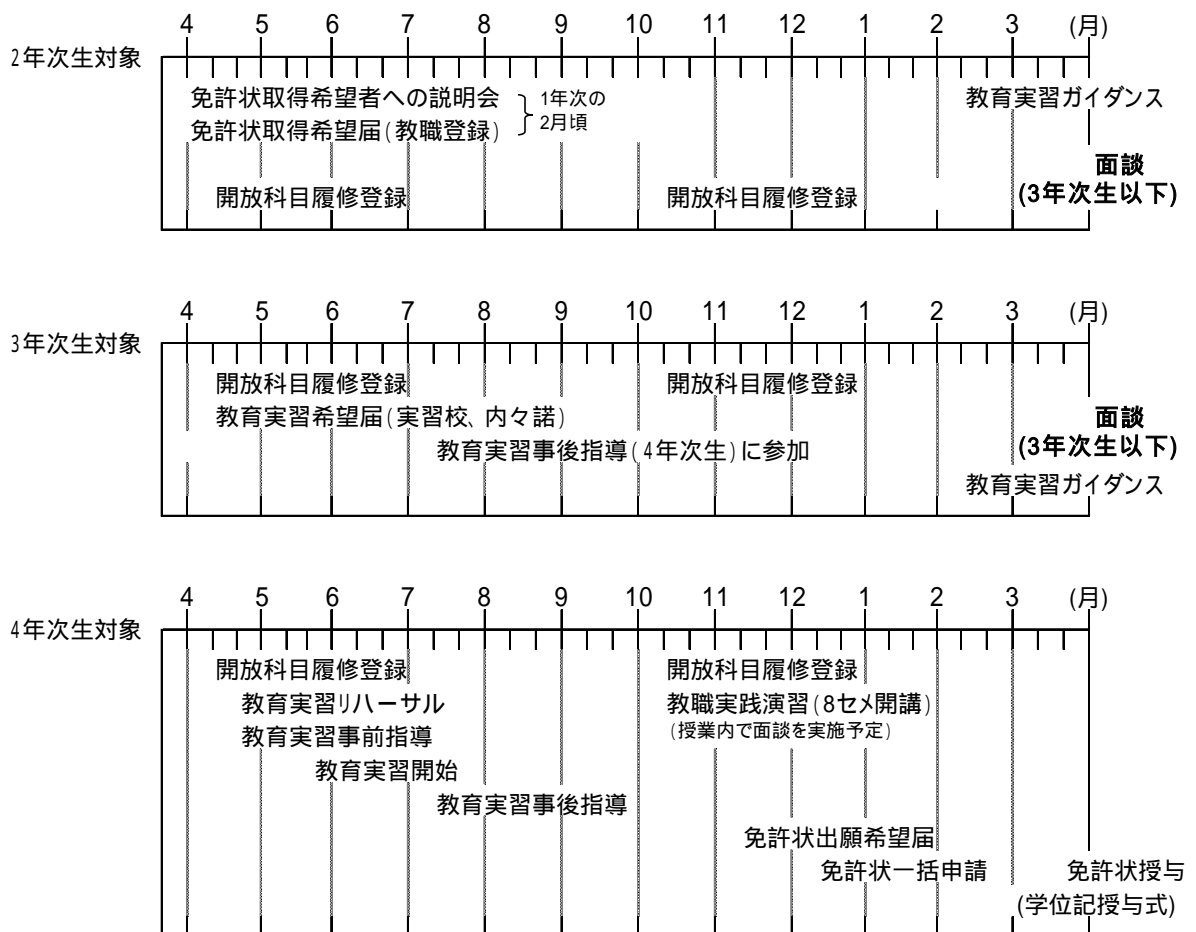
経済経営学類で取得できる教育職員免許状（以下、単に「免許状」と略す）は、高等学校教諭1種免許状「商業」です。経済学コース・経営学コースのいずれかに所属し、所要の単位を修得することによって、卒業時に取得することができます。

なお、「公民」「情報」も取得可能ですが単独では取得できません。「商業」を基礎として、さらに行政政策学類や共生システム理工学類で開講される所要の単位を修得することが必要となります。

要卒単位に加え、多くの教職関連科目を履修する必要があることや、教員への採用は狭き門であることも踏まえ、免許状の取得を目指すにあたっては、教職に就く意思があるなど、明確な目的意識が必要といえるでしょう。

1. 免許状の取得希望者に係る各種行事・手続きについて

免許取得に係る行事・手続のおおまかな時期は次のとおりです。なお、詳細については掲示します。



2 . 免許状の取得希望者の募集及び受入れについて

- (1) 免許状取得希望者の募集は、1 年次の後期に行う予定の説明会の際に行います。この手続きによって、免許取得希望者として登録（教職登録）され、以後の教職関連科目の履修が許可されます。
- (2) 教職登録できる人数は、1 学年 30 名以内です。希望者がこの人数を超える場合は、G P A 等を活用して選抜します。
- (3) 経済経営学類生が「情報」「公民」免許を取得するためには、「商業」の免許取得を予定し、教育実習も「商業」で実施しなければならないこととします。
- (4) 教職登録の人数制限に加え、「情報」「公民」免許での人数制限があり、「情報」関連科目を開講する共生システム理工学類、「公民」関連科目を開講する行政政策学類で選抜を行う可能性があります。
- (5) 編入学生を含む 2 年次生以上の学生が免許状の取得を希望する場合は、受け入れ人数に余裕のある場合に限り、本人の意欲及び履修計画を確認したうえで受け入れる場合があります。

3 . 免許状を取得するために必要な単位の修得方法について

教職関連科目の中には隔年開講の科目もあり、時間割上の自由度も低いため、履修計画を立てる際には十分に注意してください。

4. 免許状取得に係る専門領域科目の履修方法について

(1) 免許状を取得するためには、免許教科に関わらず、基盤教育の「日本国憲法(2単位)」、「健康運動科学実習(1単位)」及び「スポーツ実習(1単位)」、「英語A」「英語A」から2単位、「情報リテラシー(2単位)」を修得しなければなりません。

(2) 「教育の基礎的理解に関する科目」等の開講計画及び履修方法は、下記によります。

免許法に定める科目		授業科目	要修得単位数	履修年次	2022年度担当教員	2023年度開講予定
科目	各科目に含めることが必要な事項					
教育の基礎的理解に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	人間と教育	2	2	植田啓嗣	開講
	教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校運営への対応を含む。)	教職入門	2	2	宗形潤子 佐藤和彦 前川直哉	開講
	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)	教育と社会	2	3	(非)櫻井直輝	開講
	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程	教育発達心理学	2	2	高谷理恵子	欠講
	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解	特別支援教育基礎 2021年度以前の入学者	2	2	(非)阿部教夫	開講
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	総合的な学習の時間の指導法 特別活動の指導法	総合的な学習の時間及び特別活動の指導法	2	2	岡田努	開講
	教育の方法及び技術(情報機器及び教材の活用を含む。) 教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。) 2021年度以前の入学者	教育の方法	2	2	坂本篤史 (非)濱田秀行	開講
	生徒指導の理論及び方法 進路指導及びキャリア教育の理論及び方法を含む	生活指導論	2	3	(非)伊藤弥	開講
	教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法	教育相談の基礎(中学校・高等学校に焦点づけて)	2	3	青木真理	開講
教育実践に関する科目	教育実習	事前及び事後指導	1	4	教職課程委員	開講
		教育実習(高等学校)	2	4	教職課程委員	開講
	教職実践演習	教職実践演習(中・高)	2	4	岡田努 教職課程委員	開講
		計	23			

備考 上記科目は要卒単位に計上できない科目のため、Capの枠外で履修登録できます。

(3) 「教科に関する専門的事項」及び「各教科の指導法」の開講計画及び履修方法は、下記によります。

商 業

【教科に関する専門的事項】

免許法に定める科目	授業科目	要修得 単位数	履修 年次	2022年度 担当教員	備考
商業の関係科目	簿記概論	2	1	稲村 健太郎	
	簿記概論	2	1	平野 智久	
	入門経営学	2	1	野口 寛樹	
職業指導	職業指導	2	2	欠講	隔年開講

備考 「職業指導」は要卒単位に計上できない科目のため、Capの枠外で履修登録できます。

上記科目(計8単位)の単位を修得し、さらに次の科目から24単位、計32単位を修得してください。

入門会計学、調査法、財務諸表論、財務諸表論、原価計算、原価計算、組織行動論、財務管理論、管理会計、経営情報分析、現代ファイナンス、基礎経営学、財務諸表監査、租税法、租税法、マーケティング論、経営組織論、基礎経営学、経営戦略論、人的資源管理論、証券市場論、コスト・マネジメント、中級簿記、上級簿記

【各教科の指導法】

免許法に定める科目	授業科目	要修得 単位数	履修 年次	2022年度 担当教員	備考
各教科の指導法(情報機器 及び教材の活用を含む。) 2021年度以前の入学者	商業科教育法	2	2	(非)小林 喜則	隔年開講
	商業科教育法	2	2	(非)小林 喜則	隔年開講

備考 上記科目は要卒単位に計上できない科目のため、Capの枠外で履修登録できます。

公 民（行政政策学類の専門教育科目を履修する必要があります）

【教科に関する専門的事項】

免許法に定める科目	要修得単位数	授 業 科 目	単位数	履修年次	履修方法	備 考
「法律学（国際法を含む。）、政治学（国際政治を含む。）」	4	現代法学論	2	1	現代法学論と国際法 又は 現代政治論 又は と 国際政治論 又は 上記 又は を必修とする。	
		国際法	2	3		
		国際法	2	3		
		現代政治論	2	1		
		現代政治論	2	2		
		国際政治論	2	3		
		国際政治論	2	3		
「社会学、経済学（国際経済を含む。）」	4	社会学原論	2	1	必修	
		社会学原論	2	2	必修	
「哲学、倫理学、宗教学、心理学」	2	哲学概説	2	2	} 2科目の内、いずれか 1科目必修	隔年開講
		倫理学概説	2	2		隔年開講

備考 印の科目は、人間発達文化学類で開講している科目です。人間発達文化学類開講の授業科目の開講計画は人間発達文化学類「開講科目一覧表」で確認してください。

上記条件を満たしたうえで、次の科目をも加えた範囲から計32単位を修得してください。

地方自治法、地方自治法、環境法、労働法、労働法、社会保障法、経済法、商法、商法、憲法（人権）、憲法（人権）、憲法（統治）、憲法（統治）、行政法総論、行政法総論、行政救済法、行政救済法、刑法、刑法、民事裁判法、民事裁判法、民法総論、民法（不法行為）、民法（債権総論）、民法（債権各論）、民法（物権）、民法（担保物権）、刑事裁判法、刑事裁判法、民法（家族）、民法（相続）、地方行政論、地方政治論、地方政治論、政治思想史、政治思想史、行政学、行政学、政治過程論、政治過程論、公共政策論、公共政策論、法社会学、法社会学、情報社会論、社会計画論、社会調査論、社会福祉論、地域福祉論、生活構造論、生活構造論、社会と文化の理論、スポーツ文化論、スポーツ文化論、社会構造論、社会構造論、スポーツ社会学、地域社会学、ジェンダー論、ジェンダー論、言語文化論、言語文化論、社会福祉課題研究、社会福祉課題研究、社会思想史
--

【各教科の指導法】

免許法に定める科目	授業科目	要修得単位数	履修年次	履修方法	備考
各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）	公民科教育法	2	2	必修	隔年開講
	公民科教育法	2	2	必修	隔年開講

備考 上記科目は要卒単位に計上できない科目のため、Capの枠外で履修登録できます。

③ 情報（共生システム理工学類の専門教育科目を履修する必要があります）

【教科に関する専門的事項】

免許法に定める科目	授業科目	単位数	履修年次	履修方法	
情報社会・情報倫理	情報社会と情報倫理	2	2	必修	必修以外の科目から 18単位選択
	知的財産権論	2	4		
コンピュータ・情報処理 (実習を含む。)	情報科学概論（実習を含む。）	2	2	必修	
	プログラミング基礎（実習を含む。）	2	2	必修	
	プログラミングⅠ（実習を含む。）	2	3		
	プログラミングⅡ（実習を含む。）	2	3		
	アルゴリズムとデータ構造Ⅰ（実習を含む。）	2	2		
	形式言語とコンパイラ（実習を含む。）	2	3		
情報システム (実習を含む。)	ソフトウェア設計開発論（実習を含む。）	2	2	必修	
	プログラミング言語論（実習を含む。）	2	3		
	データベースシステム（実習を含む。）	2	2		
	人工知能と知識処理（実習を含む。）	2	3		
	経営情報システム（実習を含む。）	2	3		
情報通信ネットワーク (実習を含む。)	ネットワークシステム（実習を含む。）	2	3	必修	
	情報理論	2	3		
マルチメディア表現 ・マルチメディア技術（実習を含む。)	マルチメディアシステム論（実習を含む。）	2	3	必修	
	サウンドスケープ	2	3		
情報と職業	情報と職業	2	3	必修	
計				32	

備考 必修14単位、選択必修18単位、計32単位を修得してください。

【各教科の指導法】

免許法に定める科目	授業科目	要修得単位数	履修年次	履修方法	備考
各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）	情報科教育法Ⅰ	2	3	必修	
	情報科教育法Ⅱ	2	3	必修	

備考 上記科目は要卒単位に計上できない科目のため、Capの枠外で履修登録できます。

5. 教育実習について

(1) 教育実習は、教職に就く意欲がある学生に限り履修を認めることとし、教員採用試験を受験することを前提とします（実習校の多くが、採用試験を受験を実習受け入れの条件としています）。

(2) 実習参加資格

a) 4年次以上

b) 以下の単位数以上を修得していないと教育実習の履修を認めません。

要卒単位中より	教育の基礎的理解に関する科目	合計
92単位	8単位	100単位

(3) 実習校

a) 原則として出身高校で実施します。教育実習実施の前年度に、各学生が各自で受け入れ内諾を得たのち、学類として内諾依頼書を実習予定校に送付するという手続きを行います。実習校によっては実習予定者が多数となるため、できる限り早い段階で各自が実習校（出身校）に連絡をとり、内諾を得てください。

b) 普通科高校の出身者で商業免許状取得希望者については、担当係を通じて福島県立福島商業高等学校に教育実習受け入れを依頼しますが、必ずしも認められるとは限りません。

(4) 実習期間

実習期間は実習校より指定されます。期間は2週間が標準です。

(5) 実習費用

教育実習にかかわる交通費・実習費は実習生負担となります。さらに、傷害保険への加入を義務づけます。

(6) 実習の取りやめなど

教育実習生の受け入れは、実習校にとって多大な負担となるので、教職に就こうとする意思の固い学生でなければ快く受け入れてもらえません。他方で、実習生は実際に教壇に立ち、生徒に教えるのですから、大きな責任があります。

したがって、教育実習を行うのに不適當であるとみなしうる学生には、学類として事前に実習を取りやめさせています。十分に留意してください。

6. 教職実践演習（必修）について

教員免許取得のためには8セメスター（4年次後期）に、「教職実践演習」を受講しなければなりません。この授業では、4年次前期までに履修してきた、教員免許取得に必要な授業や実習等で習得した内容を踏まえ、教員として学校現場で必要とされるさまざまな項目を実践的に学びます。

就職活動等での欠席も原則として認められません。法令で定められた必修科目ですので、この授業の単位を取得できないと、たとえ教員採用試験に合格した場合でも免許取得ができないことを十分理解の上、しっかりとした目的をもって受講してください。

7 . 履修カルテの活用について

教員免許を取得希望の学生は、「教職履修カルテ」を使用します。このカルテは教員免許を取得するために必要な科目の履修状況を教職関連科目の単位取得後に確認したり、教育実習等の事前事後指導に活用して教員免許取得のために活用するためのものです。

詳細については、免許状取得希望者への説明会や掲示で案内します。

8 . 免許状取得希望者の登録取り消しについて

修学上の理由等により教員免許状の取得を断念する場合は、速やかに教務担当窓口に申し出てください。なお、実習受入れの内諾を得た後に教育実習を取り消すことは実習予定校に多大な迷惑を及ぼすので、厳に慎んでください。